

十字路で立ち話抄二〇〇一年八月～二〇〇二年十一月

通り過ぎれば無駄話

吉田惠吉

目次

夏をめぐる詩片……………	1
得たものと失ったもの……………	5
やりきれないときや、ホッとしよう……………	7
Living' On Easy……………	8
まっすぐ、やさしく……………	10
ノリ加減はディラン節で……………	13
逸らさず、固まらず……………	15
最初の記憶……………	17
秋の夕陽が木洩れる各室露天風呂の宿!……………	19
方言みたいなモノローグ……………	21
原っぱあるいは広場のひととき……………	23

「ほぼ日」的ご挨拶!.....25

「木の葉の子守歌」が聞こえる.....27

「まだ」と「もう」のあいだ.....29

暮れなずむ揺らぎのなかへ.....31

味覚の秋をくぐって.....35

「かみ」のみぞ知る音.....37

ほんの小走り.....40

ほくほくと日を歩みたい.....42

本を読む浮遊感がたまらない.....44

あんな道こんな道どんな道.....46

ホントに酒がうまいとき.....48

こんな距離感もあつていい.....50

今こそバランスが大事.....52

月から眺める十字路で……………	54
年を越した大切なもの……………	55
正月の内と外で……………	57
初物の素晴らしさ……………	59
滑っても滑らなくても……………	61
音にまつわる些細ないきさつ……………	63
隅っこの雪明かりから……………	65
Don't get me wrong!……………	67
とんだ見込み違い……………	70
ネットサーフィンに飽きたらとにかく1件検索ゲーム……………	72
If Dreams Came True……………	74
今どきのDIY……………	77

「売上高85%減」消費者パワー……………79
そろそろ退屈してませんか?……………81
道草もいいかな……………83
近くそして遠い春……………85
最近、何が良かった?……………87
猫と車……………89
何がどうして狂い咲き?……………91
「反省しないことと、あした何かがあるかを考えない……………93
「阪神」半疑……………95
時には当たり外れもいいネ……………97
喉ごしも切り替わりそう……………99
通り抜ける風に……………101
飛び込み際の運……………103

出かけない連休の始まりに……105

情けは人のためならず……107

散歩さまざま……109

〈おい〉つ追われつ……111

ヒモの響きが好き……113

飛び入りゴメン!……115

女と男のまたとない時……117

久しぶりの運動感がうれしい……119

人生の目鼻立ち……121

ズッコケ笑っぱなしのゲーム展開……123

梅雨入り時の散歩のリズムは……125

ちよつとした手習いのきつかけ……127

六月の終わりに……………129

おしまい之夜はマティニで……………131

通り過ぎれば無駄話……………133

夏が来れば……………135

どのように〈若さ〉から遠ざかるか……………137

転石から納涼幻覚まで……………139

オー！待つゝ違い……………141

食から耳に抜けた夏の定番……………143

言葉も海図も独りの瓶の中に……………145

暑く高くトンボがえり……………147

二人の八月に入る……………149

この夏のエロスは……………151

彼女が辞めた風景……………153

腰痛も忘れる平和なお盆：：：155

この夏の穴場は？：：：157

変わらぬ変わり目：：：159

どこかフェスティバル気分で：：：160

水際立っていた輝き：：：162

あれからもう1年：：：164

目から鱗の書見台？：：：166

これからのペース配分：：：168

秋への抜け殻：：：170

この秋の距離感はどうか：：：172

それにしてもね：：：174

秋の目線で：：：175

さり気ない持続に拍手を……………	177
役を待っている役者のように……………	179
匿名に技あり?……………	181
まさかの色合い……………	183
秋の頁をめくるように……………	185
心配事はダンスだけ?……………	187
秋を通過する二色の手触り……………	189
二度目はどうか?……………	191
ぐうたらとだらだらに挟まれた温もり……………	193
忘れられない語りの味わい……………	195
景況の引き出し……………	197
図んで書に入る館の虫……………	199
晴雨の飛び石伝いに……………	201

夏をめぐる詩片

今年の暑い夏の午後、雑誌の移動作業で汗を流していたら

「以前に詩を書いておられたようだけど、いまは

どうですか、書いておられますか。」と尋ねられたりした。

「なんか、エネルギーが弱くなってきたようで・・・。」と答えたんだが。

思いもよらない利用者の問いかけにどぎまぎしてしまつたんだらう。

自信を持って「書いてます」といえる作品は書けた試しがない。

生涯に「ある動き」を込めた詩作ができたら言うことないのだが
いつまでたつても駄目なんだなく、それが。

そんな証拠品にしかならないようなものばかりですが、
とりあえず投げ出しておきましょうか。

《語って自転車、走って十字路》

なんで読むことより、聴くことが好きなのか

目覚めの時はいつも聴覚が一番なのに、

何かを聴くことはいつも遅れてやって来る

といつてもいつとう最初に何を聴いたか覚えちゃいない

読むことの幕開けは松田甚次郎編『宮沢賢治名作選』

上、中2冊の古ぼけた手触り

繰り返し何度も読み返したのに、

下巻を探さなかったのは
活字の中より、ちよつとだけ
田舎暮らしが面白かったからか
気がつけば視界の中にいつも
老人を捜していた幼年の日々

なぜ車は、どうして免許は持っていないの？

別に主義主張がある訳じゃなし、

ただただ縁がなかっただけ

それともいつまでたっても、

自転車から卒業できないのか

今世紀最後のゴールデンウィークのサイクリング日和は

同居人と魚津までペダルを漕ぎ

北アルプスも眩しい観覧車で休めば

眼下に戦後日本の思想家が泳いだ

敗戦の日の富山湾もせり上がってくる

蜃気楼サイクリングロードを抜け

夕暮れの十字路に帰ってきた

老人と自転車がかつこいいだなんて

まるで上等の干物のようにロフトに吊されて

ひっそりくつろぐクイックシルバー

《2000 きれぎれの夏》

仕事帰りのくたびれた耳と汗ばんだ手で
つまみあげた音楽とともに
今年の夏はやってきた

39km地点で着ていたものを脱げば
身のほどに合わせた椅子はありやなしや
買ったばかりのE・C・&B B・K・がひよいと
抜かせるコルク栓の囁き

春先に張り替えた我が家の外装を震わせ
週末ごとにやって来る初孫の名残も
大陸から抜けてきた幾夜の寝苦しさも言わぬが花
底の見えたジンで飲み干せば焼ける焼ける

十九回目の同窓会で走り抜けた浜名湖は
楽器に砂丘に何だっけ
植物と都市計画を混ぜ合わせ
魚眼レンズの夕陽に溶かしてさようなら

ポケットGPSで掴みだしている居場所
サングラスに涼をため込んで待つワンナイトスタンド
生い茂る庭のエロスはスポーツ後のセックスで燃やしてみます
目深にかぶった新しい帽子の縁で渦巻く風のように

日盛りのサイクリングで駆け抜けて

喉と胃袋を唄わせる寿司屋のカウンターに
一夏の立ち話も寝転がっていた
夏の扉からエヴァンゲリオンの夏まで

《名札を取り外したくなった夏》

掛け損なった表札のように夏はやってくる
遠い夏休みの昆虫や植物はカラカラに乾いて
今朝の散歩で見上げた雲のよう

そう、夏がくるたび

常願寺水系の凍った井戸水をカラカラ響かせ
二人分のジントニックで冷やしてきた熱帯夜

たったひとりの夏祭りで三行半を書いた
なんて便利な「一身上の都合」との出会い
稼ぎと暮らしをつなぐ名札も揺れている

いま・ここで人生の寝返りを打ってみれば
気兼ねなんていらぬ僕なりの休み方があるはず
見つからなかった表札のように僕の夏はやってくる

(01.08.29)

得たものと失ったもの

八月末は身辺整理でドタバタしたもんだから、

「隆明網（リュメイ・ウェブ）」の更新にもたついてしまった。

さて、「吉本隆明著作リスト」の八月分の「語録」から、

「日本人の欠点は、物事をなんでも『役に立つかどうか』で表面的に判断し、役に立たないことはやりたがらないことだと思えます。

そして誰もが自分のやっていることは、世の中の役に立っていると思いついでいる。往々にして、他人からすると傍迷惑なだけです。

だいたい人の人生が有意義か無意義かなんて、誰に決められるんか。本当は他人の目を気にしているだけで、自分がないんですね。」

まあ、それぞれ固有の関わりの中の一人として生まれ、

一人としてしか死ねないわけですから、

自ずから、やりたいようにやればいって事でしょうか。

過ぎてみて分かったことだけど、職場にも家庭にも属さない

通勤時間って貴重ですよ、長すぎるのも短すぎるのも困るっていう程度ですが。

それと気づかぬ内に深く静かに積もっていたのは目立たないところで輝き、

人知れず息づいている珠玉のような人達との触れあい。

仕事を辞めて得たものは、家庭内時間というより、深さですかね。

以前とたいして変わらないというか、とりとめのない過ごし方なのに、

目覚めや、くつろぎや、なにげない日常のひとつまひとつまが充足している。
この年まで生きて、味わえて良かったことの一つ。

「アクセスポイント案内」や「情報探索デスク」のメンテナンスも

ぼちぼちやってるから、リンク切れやリンク先移動への対応も進行中です。

新規アクセスポイントも8月中にいくつか追加してあります。

(01.09.02)

やりきれないときゃ、ホツとしよう

なんかやりきれないな、などといってみてもどうしようもないのだが。

そう、またも起きた無辜の人々への殺戮行為、米国での同時多発テロ（9／11）報道がもたらした感触は、近いところではあの地下鉄サリン事件にどこか似ている。

物心ついてからも場所や形を変え、まるで直接的な関係がない人々への無差別で何がなんだか分からない殺傷が繰り返されてきているが、今度の出来事はもう、いつ、どこで、何が起こってもおかしくない（現在）にあつては

起こるべくして起こった、と納得させてしまうほどの切り口を覗かせてくれた。パッキリと切り裂かれた中空の楼閣で一瞬のうちに焼き尽くされ、瞬く間に崩れ落ちたマンハッタンの一角にわれわれが見届けなければならぬものを。

何処かで誰かがやったとしても、その行為をほんとうに正当化しうる根拠などあり得るのか？

たまたま事件にほど近い医療施設に居合わせたスタッフの見事な仕事ぶり。

今はもう無いだ WTCビルに近い NY の病院で働きつつある本田美和子さんの『ほぼ日』連載レポートを読んだりして、ホツと一息ついたりする昼下がり。

(01.09.13)

Living' On Easy

日本のテレビ局がハイジャックやテロリストを扱った映画番組の放映を自粛してしまったが、

アメリカのラジオ局では約150曲の放送自粛曲を決めたという。

約1200局のFM、AM局をもつ米国最大のラジオネットワーク

「クリア・チャンネル・ラジオ」は、事件後、約150曲の放送自粛曲のリストを作った。

リストには、ピーター・ポール・アンド・マリーの

「悲しみのジェット・プレーン」やジョン・レノンの「イマジン」、
フランク・シナトラの「ニューヨーク・ニューヨーク」などが含まれる。

雑事も片づきラッキー・リタイアメントの感触に浸っていたのも束の間、
米国同時多発テロ以後、報道は「報復」と「自粛」をめぐる揺れ動いている。
連れ合いともども「海外旅行」など想いもしない出不精が幸いしたかも。

足腰衰えたお袋と昼飯を挟んで向き合う茶の間の毎日、

グラス片手に二人であれこれ観聴きする夕食後のリスニングルーム、
娘と歩き出したばかりの子どもが賑やかさを出前する週末の定番、

ほんとうにのんびりぼんやりし続けるって難しい。

テレビやパソコンや自転車で一日なんかアツという間に過ぎてしまう。

おまけにお気に入りのCDやDVDがあったりするともっと加速してくれる。

九月の雨の散歩としゃれて銀行と郵便局で用事を済ませたらもうお昼、

ご近所で昨日の夕方開店したばかりのお店でランチタイムに傘を畳み、

お皿を取りかえっこして別メニューの Pasta を食べ比べしていた平日の午後。

サラリーマンからの転向だなんて言われるとびっくりしてしまう。

若さから見放され、老いから落ちこぼれている通過点にまっすぐ響く、

見たこともない奈良美智@the MUSEUM からの呼びかけ。

I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.

BECAUSE, YOU NEVER FORGET ME.

I NEVER FORGET YOU.

Leaving On A Jet Plane を歌う綾戸智絵を聴きながら、

横浜、芦屋、広島そして旭川と巡回する個展を記念する

真新しい冊子を閉じたら夜の雨足が駆け抜けていく。

(01.09.21)

まつすぐ、やさしく

それと目立たない季節の変わり目が好きだ。

初夏と初秋には庭先に暖かな日差しが、
ゆっくり動いて柔らかな影を縫い合わせている。

五月の緑も眩しい「子どもの日」の朝の庭に
投げ込まれていた第一面に「朝の詩」。

「小さな宇宙飛行士」のお母さんからの
やさしくやわらかい手触りで目覚めた。

「子宮という

神秘的な宇宙の中で

魚類、両生類、爬虫類

鳥類、哺乳類へと

進化の道のりを一気にたどる赤ちゃん

まるで宇宙遊泳を

楽しんでいるかのようにくるくるとまわっている

私は大きなおなかに

そっと 声をかける

元気に生まれておいで

小さな宇宙飛行士さん」(「産経新聞」2001.5.5)

本それぞれ、人それぞれにさまざまな出会いがある。

出会い頭でおわるモノから、

抜き差しならぬ場合まで数えあげれば百人百様であろう。

誰しもそれぞれ想い入れの人、忘れられない書物があり、

その一つ一つに生きてきた時と所が関与しているに違いない。

十数年前、人はともかくそのような想いを際立たせてくれた

書物との出会いとして、三木成夫という名前が真つ先に浮かんでくる。

おそらく医学・薬学系の図書館で働くことがなかったら、

生涯手にすることは無かったかも知れない。

総合図書館や、工学系図書館勤務の頃とは手にする本の傾向も変わり、

目配りする書評への関心に生命科学系のモノが入り込んできた頃に

手にしたのが、中公新書の『胎児の世界』というとてもない

奥行きと広がりを感じ持ったペーパーバックであった。

妻のどうしようもない悪阻におろおろするしかなかったとき、

やがて生まれたわが子の成長にただただ驚くしかなかったとき、

そして自らのへその緒に思い惑うしかなかったころ、

もつと早くに三木成夫の著述に巡り会っていたら

少しはましな対処の仕方ができていたかもしれない。

孫ができるような年になっても、そんな想いが尾をひいている。

言葉を話し始める前の乳幼児はどうしてひたすら母音を唸っていたり、

あきれるくらいに子音だけを囁っていたりするのか。

こころの温かい人は手が冷たい。あるいは、入浴は食後30分。

こういつた成長にまつわる現象や言い古された言葉を手始めに、
こころとからだを起点にした知恵について
いかに無知であったかを悟らされた。

庭先から立山連峰まで、古びた双眼鏡を取り出して見れば
「北国の少女」や「五番街のマリー」とともに
忘れ去った季節はアルバムの埃のように遠ざかっていく。

暮らしを一緒に営む家族のこころや身体のように加えて、
猫や犬に、季節を彩る庭の草木など
いのちの仕組みをめぐる僕の言葉の宇宙飛行士は
今日も木々の真上からその高さを覗くばかり。

(01.09.26)

ノリ加減はデイラン節で

大阪近鉄バファローズのドンデン返し野球は面白かった。

日本ハムに立ち上がりで0ー5とリードされた開幕戦を10ー9でひっくり返し、マジック1で迎えた対オリックス戦は9回表に1点追加されて5ー2となり、いよいよ防御率どおりの展開かなというところで、代打逆転サヨナラ満塁ホームランでリーグ制覇。

予想外ということでは阪神タイガースの優勝に負けない面白さだった。

枠組みなんか少なければ少ないほど伸び伸びできて、型から抜け出せば抜け出すほど楽しくなる。

大リーグ入りを見事に飾っているイチローにだってスランプがある。

発売がちょうどあの事件とダブったとかでかすんじゃったが、

久しぶりの★★★も納得のボブ・デイランの新譜“Love And Theft”。

ここんとこ日に1回はトリップしている憎い出来栄え、

老いてますます磨きのかかる悪声が凹凸のある暮らしに染み入る。

かつて夜学生だった頃も、そしていま裏返した学生のようになつてまた、気の向くままやりたいように遊び呆けるマーちゃんともまるで一緒だ。

往きがけ帰りがけのあてどなきに往生きわまることも忘れんばかりに、枯れた花のように咲き誇っている一枚の絵の中へ出入りする日々。

グループで大皿仕立ての料理に出合ったときなど、目立たず手際よくそれをささっと取ってくれる女の人ってなんて素敵なんだろう。

逸らさず生きるってことはできそうでできないから、

とりあえず格好良く死ぬることを密かに心がけてみたいだなんて。

2001年7月17日の対ロッテ戦も4-9で迎えた9回表に8点を入れ、2001パ・リーグ前半戦を首位で折り返した大阪近鉄バファローズ。

さあここからは楽住楽虚にお引越し・・・
生誕60周年、デビュー40周年となった年に傑作新譜を聴かせるディラン。
虚を突かれ、楽しみにケリを入れる日々を彩る演者達の季節。

(01.09.28)

逸らさず、固まらず

昨夕（10/4）ふと家で、うまい白でスキリしたいなく、などと言ったりしたら、近所でトリフをあしらった魚介料理ととっておきの白ワインに出合えて、フィニッシュを愉しむあまり、メインの握りをいただくおおいとまりました。

中古車が混みあう雨上がりのファミレス駐車場を抜けたら、ふわふわした夜風のようにお袋への寿司折を運ぶ心地よさ。箸休めにカウンターを飾った世間話の接ぎ穂をこぼしながら。

さまざまな「生きててよかった！」的ひとときがあるだろうけど、これ以上はないという具合に食欲、性欲、物欲いずれかに満足した直後が一番だろうなあ。三つともうまくかみ合って言うことなしなんてそれこそウマイ話だ。

昨夜も立ち上がりタイガース相手に3-0とリードしながら、チャンスにことごとく決め手を欠いたまま優勝の手前でヨレまくって足踏みするヤクルト的モヤモヤ症候群が食肉業界やアメリカ主導の外交関係を覆っている。

僕のコンピュータはウィルス感染を免れているし、相変わらず家でも外でも気にせず牛肉を食ったり、

「あれは戦争ではなく、国際的犯罪」といった政治家の記事に注目したりしている。

今朝は郵便局に出かけて自動ドアの具合や窓口の対応が気になったり、ちよつとした妖怪より弱いような中東の政権の不確かなニュースを疑い、行き過ぎた規模とネーミングで力瘤を誇示している虚仮猿を笑っている。

なんだか浮き足立ってきた日本の秋はどこへ行こうとしているのだろう
(01.10.05)

最初の記憶

今朝は5時過ぎに目が覚めてBS中継で米大リーグのプレーオフ地区シリーズ、ア・リーグのマリナーズ×インディアンス第2戦を観ることができた。昨日観たヤンキース×アスレチックス第1戦もそうだったけど、

あきれくらい球場を埋め尽くした老若男女がベースボールを楽しんでいる。今年のレギュラーシーズンを勝ち抜くだけの個性を持ったチームの強者が力量を尽くしてぶつかり合う短期決戦だけにとっても面白い。

なんだか居心地のよくない職場のように世の中がささくれ立ち、疲れ気味な時こそ身近で楽しめること、打ち込める小さな事柄が救いだ。アメリカの大衆は生活のオン・オフ、切り替えが巧いのだろうか。

それにしてもイヤなことを想い出させる場面は繰り返される。まるで十年前の湾岸戦争時のように、今週から始まったアフガン空爆の映像が引揚者の僕がすっかり忘れていた最初の記憶をあざやかに呼び覚ます。

田舎屋の頭上をゴウゴウと爆音が飛び去っていく東の方角に、三歳の夏の夜の縁側から爪先立って見つめていた赤い赤い輝き。あれが米軍による富山大空襲だったなんて知る由もなかった。

行く先が気になるくらい頭の上をブンブン飛び交っていた朝鮮戦争時の
星のマークの軍用機の影も遠のき、旅客機の乗客にもなったりする今になって
飛行場に隣接した体育館でママさんバドミントンに混じったりしている

なんだか離着陸する国内便の機体や轟音が妙に生々しく、
にぎやかに昼と一緒に愉しむファミレスの窓からも、
見知らぬ乗客を乗せて遠ざかる見慣れたはずの機体が
かすかに異物のような痕跡を残していく。

誰かの肩を持つこともなく姿の見えない敵を判断する季節。
昼からの雨も上がりそうだし自転車散策で眠気を覚まし、
手頃なワインでも仕入れて傾ける秋の夜をゆっくり愉しめばいい。

(01.10.12)

秋の夕陽が木洩れる各室露天風呂の宿！

高速を走って1時間ちよつとでその温泉宿に着いて、傾いた日差しと庭木の影を横長の窓で切り取る土間のロビーにハツとし、座ってジュースをいただいたり宿帳に書き込むうちに4階に通された。

ドアを開けた向こうに全面ガラス張りの敷居で明るく隔てた木造の露天風呂のお湯が庭木の梢や空に届きそうに溢れ、土間がすつきりとベッドのある寝室と座敷を左右に解放していた。

てきぱき行き届いたスタッフの説明のとおり考えぬかれた、テレビや冷蔵庫や水屋のありかにウォーキングクローゼット。わざとらしきも押しつけがましきもない空間のもてなしが、

とくに風呂あがりに足触りが心地よい竹敷きの部屋まで続いている、連れの1歳半のマー君なんか寝転がって頬ずりしたりしているご機嫌さ。下に降りてみたら1階には広いライブラリやギャラリーまであったり、

こんな温泉旅館の斬新さはどこから来たの？

やわらかいスポット照明のテーブルに部屋食の料理が届きはじめ、工夫の品々やお酒を運ぶスタッフに語ってもらった当温泉旅館の由来。貧乏な家なのになぜか温泉だけは小学校にあがるまえから縁があった僕は、

大衆旅館の三代目とその湯屋に縁もゆかりもなかった女将さんが
とにかく持ちこたえ見事に造り変えてきた姿に触れたような湯加減で、
なんだかまるで北陸の秋の一隅で温泉物語の客人のような座り心地。

まあまあ値段で買った20時間がまるで別世界のよう、
なまくらもんの僕を風呂に足を半分つつこんだように甘やかしてくれ、
居ながらにしていいお湯を愉しめる温泉こそお湯好きの快楽の極みかもしれない。

(01.10.17)

方言みたいなモノローグ

今日から巨人抜きの2001日本シリーズ、ヤクルトスワローズ対近鉄バファローズの戦いはたしてテレビで全試合を中継するのだろうか。

昭和30年代の半ばに立教大学の野球部員だった

長嶋茂雄選手が呉西のある高校にやってきた。

その生徒だった僕は彼が何と言ったかは聴けなかったが、

彼が打った球が外野グラウンドに隣接した校舎をとびこえ、

全校生徒の神話になってからというもの、

巨人ファンならずともちよつと気になっていた。

現役選手を引退するとき、「私は今日、引退しますが、

わが巨人軍は、永久に不滅です」と言い放った。

そこでまた僕は長嶋茂雄選手の言動が気になった。

それから27年過ぎた2001年秋に長嶋茂雄監督は、

かつてのような引退の挨拶を超えるメッセージもなく、

原監督への引き継ぎの言葉だけを残し、

さらりと巨人軍の監督を辞めた後に、
どんな不滅のなかへ、あるいは外へ？

外国語を方言のようにあやつって活躍する若い選手たち、

今年もアメリカ野球界では野茂が三振をとり続けたし、
イチローは昨日も見事なヒットを打っていた。

そしてマラソンランナーが残したことばのヒット、

「金メダルや世界最高記録がうれしいわけではありません。

今回、自分が立てた目標を達成できたことがうれしいのです」
さわやかに言っただけの高橋尚子の笑顔が新しかった。

このまえBSハイビジョンスペシャルで観たプールの
水を使ったO（オー）の舞台に出会って飛び込んでいった
シンクロメダリスト奥野史子の競うから見せるへの変身。

この夏に図書館を現役引退できた僕はおいしい生活！

秋の午後の日差しに誘われるまま自転車を転がし、

常願寺川を馳せ下って海を眺めてはひきかえしている。

(01.10.20)

原っぱあるいは広場のひととき

好きなサイクリングコースの一つは常願寺川に沿って山に向かうなら左岸、海に出るなら右岸
ちっちゃな子が本装備でミニバイクを操るエンジン音
不登校の生徒や、本番中のカップルがいたり
ラジコンに興じるおとうさんたちの滑走路まで
ペダルを漕げばいろんな人影も風景に溶けて流れる

秋の日曜ともなるとバーベキューで賑わう河川敷公園
校下のバドミントン少年団恒例の行事に自転車で辿り着けば
あれあれ今年はなんだか配役が違うじゃないか
初対面のお父さん方はひたすらせつせと焼き続け
ときには練習や試合につきあうお母さん方は
テーブルを囲みひたすら食べて飲んでお喋り
ああこれがパパとママ、若い夫婦のやり方なんだ

発泡酒と鶏から牛まで肉と野菜のフルコースはいかが
紙コップに吉田パパと書いて渡してくれる配慮
朝練を済ませてきた子どもたちよ勝手に遊べ
焼きそばがメインのこの日を準備したママは憩い
日頃の帳尻あわせて疲れたパパは芝生で酔いをさます

陽が傾く前に散会したらおいしい魚を求め
ほどよい秋の夕暮れの酒に会いに行こう

道路や街並みはしっかりしているようなのに

なんだか顔なしが衰えさせているような富山市の顔つき

活気が乏しくなった街路を自転車で逆走するように

通勤の行き帰りに通り抜けた1970年代の高岡古城公園を抜け

1950年代の殖生で最初に自転車に跨った砂利道に疲れ

原っぱに倒れ込んだ記憶の広場まで

なんとなくテネシーワルツを口ずさんで迷わず帰ってきた

今日も僕がデジカメで切り取ってきた明るい風景の路地裏から

出かける原っぱや広場があったらいったい誰に会えるだろう

(01.10.22)

「ほぼ日」的ご挨拶！

知ってた？「ほぼ日刊イトイ新聞」が日速的なこと。
たぶん1998年の6月頃から無料なのに飽きず、
モモクリ三年も付かず離れずアクセスしてるよ。

私的なタダほどつまんないとは無縁で、
ひたすら「インターネット的」だから
日に一度はあやかりたい「ほぼ日」画面。

聴けるわきやないコトバがミュージックしてる、
ほんと目で聴いているデジタル系生ものってわかるかな。
たとえば村上春樹の作品を読むってことが、
とどのつまり彼の文体を聴くことになってしまうように。

楽屋裏まで見せてるようでホントは見えないところで、
ミーティングなどと称した凄い音合わせや、
スタッフそれぞれの独習なども隠されているから、
ありがちな不快な濁りや得体の知れない意味ありげから
どこまでも徹底して逃げ通せている乗組員の力量。

編集長の隠し味が通奏低音みたいに響き
いろいろ聴き終えた後も心地よいから、
やがては愉快的な無駄に支えられた広がりや深さに、

日に一回は近づいては遠ざかったりしている

「ほぼ日」 的リズムに呼応するぼくらのいのちがある。

今日も共鳴しているさまざまな書き手や対談者との

文体の協奏曲や合奏が響くま新しい広場に、

出かけしつかり聴き入るぼくのこころとからだ。

ときにはパソコンを離れて街に出たりしても

「ほぼ日」 はリンク・フラット・シェアのトリニティで

きみらやぼくらが出会う広場を演出し続けているから

昼夜かまわず「ほぼ日」 気分を遠投してみる

気軽な「ほぼ日」 グッズなんてのも繁殖する日常から

ほぼ現在進行形的魅力が羽ばたくネットまで

まるで偶然なのにそれでいて事件のように賄っている

「ほぼ日」 暮らしでほぼ元気さ

(01.10.25)

「木の葉の子守歌」が聞こえる

曇りがちで風も強い秋の日曜に、
明るく広い市の総合体育館でほぼ1年ぶりの
バドミントン大会で時を過ごした。

メンバーが若返りつつある参加チームのなかには
数ヶ月前まで職場が一緒だった懐かしい顔も見え、
挨拶を交わしたり思いがけぬ旧交も暖まって、
とにかく終わつた後の脱力感がなんとも気持ちよく、
疲れなんかかなり遅れてやってくる年頃なのだ。

運河を遡る足取りに背を押すビル風まかせ、
辿り着いた娘夫婦が住むマンションのドアを開けたら
留守番兼子守婆さんの元から一歳半が駆けてくる。

「マゴのつかいやあらへんで」とは言わないが、
なんだかんだの声を発し歓待のご様子。

たぶんマー君が生まれる前のこと、
珠洲のお祖父さんに秋祭に呼ばれたときかな、
荒れた海に漁船を出して用意された鯛をご馳走になったり、
三歳ぐらいの従兄弟と戯れたことまで思い出した。

娘の時もそうだったけど三歳ぐらいまでの子どもには、
こんなに見せてどうすんのかといいたくなるくらい。
どれもこれも初めてだわ！の連発をかませられ、
どんなにぶつつけられても持て余すことのない、
二人にしか見えない大入り袋は日に日に増える。

今日も人々の到着と出立を仕切る富山駅を見下ろせば
7階あたりの窓の外まで枯れ葉が舞っている夕暮れ、
シャワーを浴びようと脱いだスポーツソックスに
あいていた穴から小鳥が飛び立っていった。

(01.10.30)

「まだ」と「もう」のあいだ

寒気が日本海を抜ける十一月特有の雨模様
高屋敷界隈の深まる秋の景色も夜空もだいなしだ。
ようやく身体の不調から抜けさせたとはいえ、
近くの小学校の体育館に出かけるのがなんとも億劫。

三十代からの腰痛と痔疾のリハビリにシャトルを追いかけ、
この年までラケットを振って子どもたちと遊んだり、
四十代からはスキーで滑り続けられるなんて、
大陸の半島生まれの虚弱児のなれの果てにしては
いささか上出来かもしれない。

かつて田舎暮らしの漬垂れ小僧の眼には
家督を守る四十〜五十代の「おやじ」ぶりが焼き付いた。
当時の村人たちの年齢をとくに並び超えたはずなのに
幾つになっても彼らの存在感にはかないっこないというか、
あの明治・大正生まれの「おやじ」が身につけた「成熟」には無縁だ。
もちろん彼らがああ歳でスポーツに興じる姿なんか
とうてい想像できないということを差し引いての感じ方。

たとえば読んできた世界に目を転じてみれば、
北村透谷や石川啄木の夭逝には驚くべき「早熟」が裏打ちされ、

どうしようもない家庭の事情に生まれ落ちた漱石の
死ぬ四十九歳までに書き残した広さと深さに唖然とする。

父性どころか親父の背そのものに縁がなかった僕は
どんなおやじを生きつつあるか？

いま・ここで働き終えそして暮らす居心地は
つかの間のまだとともうに差しかかった年齢の所為か？
生まれ、婚姻し、子をもうけそして老いてくたばり、
というまっとうな生き方から外れたりはぐれたり逸れたりで、
とにかく身丈にあった振幅を繰り返すだけだろう。

大学の図書館勤めでいっぱい元気をもらった学生たちの
「若さ」が「性」の力によるものだったように、
バドミントンに興じてスポーツ少年団を通過していく
子どもたちが分けてくれる生粋さは「性」を知らないが故に、
だとしたら中々老年を生きるリタイア組にはいったいなにか？

そのままわからないことはわからないままに、

秋のトンボのように飛んで急がず失速せず、

今は窓も暗い雨雲の向こうに隠れて

猫又・釜谷・毛勝山と北に延びている

なだらかな秋の成熟を遠く遠く思い描けるだろうか。

(01.11.6)

暮れなずむ揺らぎのなかへ

お天気まわりもなんだか不揃いで薄ら寒く、
ジントニックにかわつてスコッチウイスキーが
恰好のひと時をもたらず冬への入り口。

まるで霧に閉ざされたように

出生地の大陸の半島での三年は何にも覚えちゃいない。

引き揚げ育つた富山の西のはずれから富山市内へ、

それにしても戦後日本の25年は凄い。

田中角栄の日本列島改造論で土地ブームに、

僕のような出来損ないにも土地を買わせ家まで、

1972年の秋には高屋敷にわが家を建てつつあった頃だった。

札幌オリンピックでは日の丸飛行隊のメダル独占が光り、

グアム島のジャングルから、恥ずかしながらと帰った

横井庄一元軍曹の姿勢がまぶしく、

浅間山荘に籠城した連合赤軍と包囲した警官隊との

こぜりあいを終日中継するテレビ画面の袋小路。

仕事場でガス自殺した川端康成の途絶。

イスラエルのテルアビブ空港では日本人ゲリラが

自動小銃を乱射し26人を殺害し、

連続ドラマの木枯し紋次郎はあつしにはかかわりのねえことで、

と眩きながらバツタバツタと斬り殺し、
トイレットペーパー騒動に巻き込まれ、
暮らしの冷や汗を拭き取っていた生活水準。
売り上げで三越を抜き小売業のトップだったダイエーも
今じゃマイカルに続く落ち目の三度笠じゃないか。
1ドル＝360円の円を1ドル100円前後まで、
強い通貨に変えてしまった日本経済の力も底をついてしまい、

かろうじて「ローン」も「蓄え」もない
棲み馴染んだ我が家のどこを見回しても、
「家計の安泰とそれに連なる事柄」
に左右された安普請が惜しまれる。

とにかくすべて「かみさん」任せの「その月」暮らしで、
とつくに家の補修費用が建築時の総費用を超えた
屋根の葺き替えに続く外壁の張り直しついでに、
この正月に壊れたBSアンテナの取り替えに合わせ
デジタル放送受信チューナーを衝動買いたんだが、
BSジャパンの「Jプラス1」の「20世紀の暮らしを変えた商品」
(日系リサーチ調べ)で放映されたランキング商品が、
自分の予想と余り違って無かったというかそれぞれ
我が家の生活史にすっかり食い込むモノばかり。

5位 コンピュータ

たぶん1988年頃、中学3年だった娘にせがまれ、

かみさんがポンと出してくれた軍資金で一式揃えて以来、
取っ替え引っ替え我が家に電子の灯が途絶えたことはない。

4位 テレビ

田舎住まいの超貧乏だったから我が家のテレビ購入は村で最後だったが、
街に移り住んだ今じゃ4台あって、衛星・デジタル放送も受信可能と相成った。
もちろんビデオも、レーザーディスクもDVDもすべてワイド画面で
観ることができるようになっている。

3位 電子ネット

とにかくネットワークにつながっていないコンピュータは一人前じゃない、
ということでもパソコン通信に取って代わったインターネット
常時接続が我が家での触手の一つとなっている。

2位 携帯電話

電話嫌いで持つことはないと思ってたが、どっこいモバイルにはまって
PHSを使い初めて以来、手放せなくなってしまった。

1位 コンビニエンスストア

バブル全盛期からいろんな郊外店がご近所に出揃ったのに、
コンビニだけが散歩コースになくて何となく肩身の狭い思いをしていたが、
数年前に近くに出店したときは嬉しかったね。
一昔前の万屋が現在に甦ってこうなりました、
という佇まいに出入りできるのがいいのだ。

ちなみに8位は車（我が家に車は無く、もっぱらバスとタクシーが頼りなんだが、自転車とスキーの年間走行距離は半端じゃない）で、9位がクレジットカード（自分は滅多に使わないが、夫婦で何枚か持っている）だった。

生きていくうえでは、どれもこれも、あってもなくてもどうでもいいモノばかり。ただどれもこれも身近にないとなんかつまらないというか、寂しいというか、とにかく自分の時間が保てないような気がするのだ。とくに自分のようなひきこもり型人間にとってはみんな必需品に近い。

地域の住民も人さまさまのように、暮らし向きもさまざまだが、生活必需品以外の消費に暮らしの主体がシフトしてしまっていることで、いろんなモノを扱うお店が多彩にご近所の近景に溶け込んできている。

四季折々の高屋敷の風情を屏風のように映し出す北アルプスの山々の姿を変わらぬ遠景としながら、

現場の見えない「戦争」のニュースも流れる今日この頃。

築30年の我が家も、我が身のほどにくたびれてきたとはいえず、リハウスなんか、何するものぞ。

わずかな係累も家屋もあてになんかしていない。宅地も老後の生活資金の一部として使い尽くして二人一緒に死ねたら本望かな。寒さに向かう折から悪い風邪などひかぬようどうぞご自愛を！

(01.11.12)

味覚の秋をくぐって

十一月の第2月曜は県総合体育館の大アリーナでのスポーツに興じるご婦人方の賑わいに圧倒され、

昼をご一緒した焼き肉屋の中ジョッキが

なんと一杯88円にはいささか驚いた。

価格破壊の焼き肉も美味さ倍増といったところだった。

若くて元気な奥さん連中はお店選びも巧い！

ビールでほろ酔いの午後は今が旬の綾戸智絵の新譜（ビッグバンドライブ！）と
新刊ムック（文藝別冊「綾戸智絵・ジャズを越境するエンターテイナー」）で
ひとり盛り上がっているところへ娘から電話。

あゝ、こんなことならお昼は控えめにしておくんだった。

はるばる珠洲から車でお出ましのご両親が海の幸島の幸に銘酒まで。

漁師の三男の娘婿がさばいたお造りが大きな寿司桶に見事に盛られ、

これ以上はないわが家一番の大鍋で茹でたてのズワイガニの湯気が匂う。

解禁直後に海が荒れ続けたとかで蛸島漁港へ水揚げされた

今年の初物は姿もよく熱々の味が格別だ。

ほどよく冷えた吟醸酒が後口をスッキリ引き締め箸の進むこと！

「松の司」陶酔手づくりラベルはいつ拝んでもはうまい！

実は数日前も久しぶりに連休を取れた娘婿が腕を振るってくれ、

冬場のネタが揃った鮨を肴に「松の司」をメインの酒にしたばかりだったのだ。

漁船を休ませる冬場は関西で酒造りに精を出すおやじさんによれば

一俵三万円の兵庫産の山田錦を磨いて米粒が三割五分くらいに磨きあげ、
上等の酵母を用い酸がつきすぎないように低温でアルコール度16パーセントに
醗酵させるのが至難の技のようでそんなに量は仕込めないみたい。
なるほど近所の「やまや」にも出回らず高くてうまいわけだ。

わが家に訪れた味覚の秋は旬の食材に恵まれたとびきりの美味さだが、
取り置いた蟹ゆで汁や活魚のザンやアラで食のセカンドステージも味わえる。
とりあえずワインに合う料理やホットポットがいいだろう。

テレビの料理番組だけじゃなく巷を眺めても料理の下手な女性には
妙な色気があって可笑しいというのも僕が感じる、食の七不思議のひとつ。
うまいものを作ってお酒とともに愉しむひとときというのはほんと人を選び、選ばれる。

田舎の煮物や卵料理に和え物の良さを覚えさせてくれた母方のおばあちゃん、
ゲテ物から慶弔時の御膳料理までいろいろ食べる楽しみを示した父方のじいさん、
いろんな食に出会うたび二人への想いが郷愁のようにやってくる。
そしてまた岡本かの子の短編『鮓』とともにマラソンランナー円谷幸吉の「遺書」も
生きることの深みを探り当てた舌触りのように甦ってきたりする。

「はだかの肌をするする撫でられるようなころ合いの酸味」を引き立てた
赤ワインで遠路の客人との名残を惜しみ、話が及んだ

この秋のボージョレ・ヌーヴォーもそろそろ届きそうな
十一月中旬に獅子座流星群が近づくと秋の夜を待ちうけながら。

(01.11.15)

かみみのみぞ知る音

この十一月の運はどうなってるんだらう。

ご招待案内があつて応募した「ほぼ日ブックス」創刊記念イベント

紀伊國屋ホール（新宿駅東口）で十一月三日（土）に行われた

『言葉はだれのものか』と題した豪華なトークショーにハズレ、

十一月十日（土）2000年体育館でのスポーツ少年団のバドミントン

新人戦で我が校下の子どもたちは2回戦で全滅するし、

今朝（11/19a.m.2:24〜3:19）方のしし座流星群にもふられ、

年末にむけ宝くじを買う気力も失せた。

もう星に願いをなんて歳じゃなしせめていい音楽を！

この夏にふられて以来待ち続けた「加藤晴之さんの紙筒スピーカー」が

やっと十一月の第3木曜解禁のボージョレ・ヌーヴォーと味わいを競うようにやってきた。

隠居中の自作管球アンプを引きずり出して埃を払い暖気運転も済ませ、

買ったばかりのヴォーカルCDの響きに浸ること数10分。

かみみのお告げならぬ妙なハム音と変な匂いに目を開けたら

なんとなんと管球アンプの出力管が赤熱しているではないか。

あわててコンセントを引き抜いたがアンプカバーで餅も焼けそう。

ああスピーカーコイルを飛ばしちゃったかもしれない!?

ジョーシンのピットワンに走って一番高いスピーカーコードを買い求め
使用中の石のパワーアンプのB端子に「紙筒スピーカー」を繋ぎ直せば、

やおら出てきた音にあれあれくたびれたりリスニングルームの空気も入れ替わった。見たところ住宅用の配水管ぐらいの太さの紙筒に大人の拳大の

スピーカーユニットをはめ込んだだけの「加藤晴之さん」あんたは凄いい、凄すぎる！（試聴せずに買ったのも初めてだが）

中学生のころ一枚の硬い硬い板に錐で両手をマメだらけにして穴を開けはめ込んだ六半スピーカーから聞こえてきた音に震えた「少年の日」が聞こえ、お世話になった職場のつき合いやカミさんとのつき合いよりもながい、つれづれのコンサートや聴きあさったLPにCDの感触を吹き抜け、いま・ここで自分の音楽に遭遇し浮遊する臨場感に包まれている。僕の姿をデジカメで撮ったらたぶん数ミリ飛翔していたことだろう。

暮らしの耳にとどき続け貯まってしまった僕の数千の音楽コレクションは古びたりスニングルームに紙でできたま新しい音楽メッセンジャーを得て着慣れた装いで呼吸する衣服や肌を新たにやさしくつき抜け、どこまでも柔らかく内臓にゆったりとこの1枚この1曲が響き渡る季節を彩る。

たまたまその文体から聴き取らせる寺島靖国なる御仁の好みのジャズサウンドとはたぶん対極にある響きにちがйнаかろうが、それぞれが聴きたかったにちがいなまたとない出会いが、^{かみ}の導きですんなりと約束されてしまうなんて。

とつくに聴き飽きたはずのアナログレコードを回してみてもこのほかびつくり、われら夫婦なんかじゃとても真似ができない相性の良さにたまげることしきり。

「レコードマーケット」のジャズが縁で仲良くなったご主人にや悪かったが

葬式でジャズを響かせ先に逝っちゃったあんたに売り払わなくてよかったよ。

中古ジャズアルバム商品の仕入れに困った故の誘いにウンと頷いたら、

またとないかみの響きの御利益を聞き逃すところだった。

あんたのゾウさんのようなからだに「紙筒スピーカー」のジャズがもし届けられたら

まるでダンボのようにしし座流星群のなかを飛び回っているのではないだろうか。

(01.11.19)

ほんの小走り

濡れ落ち葉なんてどこ吹く風というふうな小春日の晴天続きで、今週は昼飯の友の「笑っていいとも」の番組終了がお出かけの合図。昨日は東に今日は西に自転車を転がしては愉快的な午後のひとときからその日の風向きや眺め具合で北回りや南回りで帰ってくる。

ひとしきり働いた医薬大や富大の図書館が遠くに見えたりしてもあつけないくらい何もなく走り抜けるだけなのにローカルニュースで建物が映つたりすると内部の汚れ具合なんか気がなつたりする。夜間の学校解放で使わせてもらっている小学校の体育館などもなんでまああんなに埃とゴミだらけなんだろう。バドミントンコートを使う前と終わってから二度もモップがけ、それでも滑りやすく無理せずゲームを楽しむように気遣つたりで、掃除がゆきとどいて床のクッションもいい県総合体育館と大違い。建物のなかで働いている人たちや出入りの業者そして利用者の違いがますます普通じゃない様子を醸し出しているのか、なんだか汚さ醜さへの外しっぷりが目立つ今日この頃。

揺れる街路樹の紅葉や薬師岳から毛勝山へと転がる真珠の輝きにつられ、いつもの見慣れた風景を際だたせて回転する銀輪から疲れもぬける。四面不景気みたいにくすぶり続ける世相のオアシスみたいにやってきた、今週の目玉は何と言ってもア・リーグ MVP に輝いたイチロー、

どことなく、ブラッピーの風貌に似てきて、ピカチューしている。
こんなおめでとうの気持ちになれるなんて久しぶりでいいね。
さて明日からの三連休にどんなうまい物にありつけるだろうか。
(01.11.22)

ほくほくと日を歩みたい

過ぎたばかりのあったか連休が懐かしいくらい寒くなって、雲間から覗く立山連峰の麓近くまで白くなってきている。

ベビーシッターと2001バドミントン日本リーグ高岡大会と町内のバドミントン大会の審判と買い物や映画につき合ったりで、三連休もアツという間に通り返けたらもう冬気分近づいている。庭木の雪吊りも済んであとは裏の雪囲いを晴れ間にやるだけだ。

ここんとこ週に3回ぐらい運動を連続しても左膝や右腕に支障が出ず、一月に予定している志賀のスキーツアーも楽しめそう。

歳を重ねるほどに気力や心持ちが体調に左右される度合いがきつくなるようだ。濃いめの料理やきつい酒やアクの強い人間関係を避け気味になったり、変わることを恐れて新しいことに手が出せなくなったりしてきたら、あとは老化のなんだ坂こんな坂をぼやきながら一気に転がり落ちるだけだろう。

お袋の老化と一緒に暮らす時間がたつぷりになっていとしいというか、あらためて〈老い〉にその人が経てきた生活習慣のツケのすべてが突きつけてくる避けられない何かから目を逸らすわけにはいくまい。

花より団子といった処世だけじゃ受けきれない関わりもあるし、どんなに金を積んだって渡りきれない橋というものもこの世にはある。

リストラが打ち進むオトコ社会の老化現象が際だってきた年末にむけ、戦後50年を過ぎてからの日本の現状を「第二の敗戦」と捉える状況にあって、日本の社会を支えてきた中年の価値体系もすっかりぐらついてきている。NTTの十一万人リストラ計画を呑んだ労組のパートタイマー化で、なしくずしの年功序列&終身雇用システムの終焉に判が押されてしまった。

さて孤立し無力にさらされた中年は手ぶらでどこへ歩み去ればよいのか？
(01.11.27)

本を読む浮遊感がたまらない

もう十一月もおわりで「隆明網（リユウメイ・ウェブ）」の更新作業、吉本氏の新刊『読書の方法…なにを、どう読むか』（光文社）の書誌データを打ち込んだりしていて仕事で膨大な量の本に触った割には自分の貧しく乏しい本との出会いを思い起こしたりしてしまった。

図書館勤めを辞めてしまったとたん図書館はまったく利用しなくなり出版状況や業界動向もどこ吹く風。むかし足繁く通った古本屋詣ではとつくに途絶え、古書展もずいぶん前に歩いた京都の寺の境内が最後となっている。

ちょうど1年前の千葉大図書館訪問の帰り、池袋のリブ店の書棚を見て回ってその品揃えの凋落ぶりと手にとって読ませる魅力が消えていた棚揃えに愕然としたことがある。近くに寄ったら必ず足を運ぶのは京都の寺町二条にある地べたのS書房だけというのもちよつときみしい。

安くて便利で料理人の人格を感じさせない外食産業みたいに、棚揃えに本の目利きを感じさせず平積み台にも読ませる工夫が乏しい書店のコンビニ化だけが目立ってしょうがない。

出版不況だとはいえ新書の新刊ラッシュが続く昨今、たぶん一日に150〜200冊に及ぶ新刊の配本の流れから

売りたい本を確かな腕で掴みだしてどのように棚に並べるか、限られた店内スペースをやりくりしながらどの本を返品にまわすか、それはそれできつい毎日の作業が書店員についてまわることだろう。

忙しく図書館資料の処理に手一杯でそれを利用する人にまで手が届くようなサービスの姿勢を示せない図書館員がいるように、モノとしての本を動かすのに追われ読ませたい人の手にとらせ買わせてしまう書店サービスができない店員もいるにちがいない。

「病氣^{びやうき}だけを診て、患者^{しやう者}を診（られ）ないヤブ現象ばかりじゃない。現物に触れないオンラインショップだがb k lのサイトで

某氏がやっているバーチャル書架の品揃えの切り口が面白い。ところでラジオの「話題のアンテナ日本全国8時です」で聞いた話、町田駅4分の高原書店の在庫はとんでもない量を誇っていて、その支店が新宿大久保南店として100万冊もの古本を商い、また池袋（東口）のジュンク堂では150万冊の新刊本を取り揃え、そのタカハシクミコ店長ほどの本の目利きはチョット見あたらない、というのが図書館を利用しない読書家で詩人の荒川洋治氏の言葉だったか。

そういえば図書館の読書は為にする読書の範疇をたいして超えられず、何の役にも立たない純粹無垢の無償の行為としての読書の端緒はどこか人生の違ふところにひっそり転がっているかもしれない。

(01.11.30)

あんな道こんな道どんな道

映画『ハリーポッター』の初日に行きそこなってしまった十二月一日の曇りがちで暖かな土曜の午後3時過ぎ、スポ少バドミントンの子どもたちと遅れないよう自転車で、高屋敷界隈の押しボタン信号の三叉路を渡りきったところで、どこかからYさくんと女の人の声が弾けたような気がした。

なんと信号待ちの運転席の窓から手を振っている元気なお顔はTさん、ちょうど3ヶ月前に僕が辞めた図書館の閲覧業務を引き継がれたお方。すばやく信号が変わる前に手を小さく振って応えただけだったが、思いがけない高屋敷の三叉路での自動車と自転車との奇遇で、なんか現役の素直で元気に明るい仕事のモットーを交わせた気分。

はずかしながら高屋敷の十字路なるサイトを始めてからは、未知の方からメールで素直で元気に明るい気分を分けてもらったり、数百万円はたいてリスニングルームに入れたオーディオ装置で聴いていた1980年代中頃に買ったLP『峠のわが家』（矢野顕子）にはびっくりとか、15年後に数万円でつなげた「加藤晴之さんの紙筒スピーカーカー」を待つて、はじめてそのレコードに込められた彼女の歌声とバックバンドの凄腕たちの100パーセントがわが部屋に届いて響きわたった些細な道筋なんてのもいい気分。加えて師走のトップを飾ったMさまのお子さま誕生ニュースは遠いけどほど良い道筋に。

なんだか深く沈んだ無意識の層から生まれ出た赤ん坊の一つの道筋は、やがてさまざまな岐路をまたぎいろんな道筋を辿ってどこかに渡る。それぞれ学校と職場へ向かう娘と一緒だった明るい朝の日差しの日差しの道すがら、思いつく限りの「道」を二人で数え尽くしたあげくに一致したのは、いろいろ時を過ぎしわが家へ帰り着く道筋こそが一番ということだった。

やがて嫁いだ娘は子育てに励み父は父で余暇にはまりこんだり、モバイル片手にいろんな地図サイトを検索利用しながらの旅筋や、紀行的な要素のある読み物などもインターネットで地誌を調べながらの読み筋で、なんだかよくわからない筋道を解きほぐしたりもつれたりするのも道草の楽しさ。

コンパクトな「加藤晴之さんの紙筒スピーカー」みたいに飾らず主張せず、与えられた内容をすべて解き放つてはその存在すら感じさせない響きに、消え去ることによって伝わる復路の道筋が見えたような気がした。

とにかく幸せで健康な挨拶が交わせるっていうことはとってもいいことだ。

(01.12.03)

ホントに酒がうまいとき

出勤前のかみさんに念を押された十一月もおしつまった金曜の夕方、高屋敷に移り住んだ時から暮らしのメニューに書き込まれてきたご近所の鮪盤で待ち合わせていたらいつもさわやかな女将さんがこれから忘年会が入ってて賑やかになるかも、と二階を指さした。

たぶんこのお店で家族みんなが馳走になったながい積み重ねがなかったらぼくにとつての酒と肴のほんとうの味を知らない暮らしだったかもしれない。だけどお酒がほんとうにうまい時を知ったのはここ数年来のことだ。

車窓を洗う五月の緑と日本海の青さが映える連休に能登半島の最北端へ走り、前夜の酒宴も醒めやらぬ娘婿の実家でいただいた朝酒には夫婦して仰天した。

禁断の酒の味を知ってから休日ともなると朝のターンテーブルにレコードが載せられるようにもつとも酒のうまい時がめぐることがある。

漁師の食卓にお刺身と酒が並ぶのは朝飯前のことだったんだけど、

何回か娘婿のおやじさんと酒席を重ねるうちにご本人の口から

朝飲む酒が一番うまくてこたえられないを耳にした時なんか、

この歳になってようやくわかりましたと相槌を打つたりするようになるまで、冷や酒が口に生臭かった小学3年坊主からよちよち歩きだしたぼくの酒道は、あってもなくてもいいような失敗談がいっぱい転がってたりする。

最近では十二月はじめの日曜の朝のことだけど、

ローカルなバドミントン大会への校下チームの員数揃えの要員参加が

前日になってパートナーの事情で出なくてもよい運びになり、
これは好都合とばかりに朝酒くらって映画なんぞ観はじめたとたん、
電話一本で道具一式かつぎ会場へ駆けつける羽目になってしまった。

バドミントンだとゲームは主審のクラブ・オール・プレイという

判ったように判らない一言で始まるけど酒をめぐってのぼくの人生の些事は
ふとしたきっかけからとんでもない広がりや味わいをもたらしてくれたりする。

(01.12.07)

こんな距離感もあつていい

馴染みのスキー場オープン・フェスティバルに出かける気にならないような窓の外をうかがいながら朝のネット散歩でふらり知人のサイトに立ち寄ったら新作のパステル画で見事に更新されたページに
またも見事な手さばぎで退職後を飾る絵筆が息づき
飲み慣れた食後の温かいコーヒーも格別にうまい。

渾垂れ小僧がはじめて作った鉱石ラジオでキャッチした電波の世界みたいにパソコン通信からWWWへの移りゆきはリタイア組にも
くたびれそうな茶飲み話や回顧談を忘れさせるくらい
未知の隔たりに潜む広がりに分け入る手触りが新しい。

パチンコ玉やゴルフボールでコントロールできる距離の長さで
面白さの優劣を説いた詩人は手元の端末から瞬時に地球大の
網の目を駆け抜けて有象無象にアクセスする距離感を何と言うだろう。
仕事頑張ってますや今月末で退職しますメールなどが行き交うのもいいけど
きままに調べ読み打ち買い聴くだけじゃなく
自分の言葉や表現を自前のサイトに載せてみたり
なんでもありのネットの触手にはまり込むひとときの浮遊はどうだ。

この秋に身近な医薬大まで出向き学生さんとの交流記も鮮やかだった
ほぼ日新聞画面の「癌爺」さんの連載「ガンジーさん。」が

その後の入院で途絶えて間もなく十二月二十日午後12時40分に永眠された
ネット上での一方的な出会いと別れに不思議な距離感の哀悼の意を
その詳細は知らない独特なご老人の葬儀の日に捧げたい。
(01.12.23)

今こそバランスが大事

やりすぎした物事のかたづけや

掃除に疲れた午後のひととき

テレビ放映のクリスマス映画の

指定席に座ったかのようで

「スモーク」(1985年、米)が無性に懐かしく

私的なある日の紫煙の別れが甦ったりする

仕事で訪れた7年前の十二月

仙台のビル街から夜景を眺ながら食後のバーボン

しめしあわせた二人が燻らす

スモークがとても邪魔になったよう

百円ライターも「マイルドセブン」も

静かなレストランのテーブルに置いたまま

二人ともなんとなく今日までタバコは吸わない暮らし

祖父さんがコウモリの絵柄のタバコを

吸わせてくれた十代もおわりの二つ目の職場の毎日

なぜか38歳まで働いて後は気ままな

その日暮らしを夢想してたようだが

やがて異動した新設医科大学の図書館勤めで

キリキリ舞ううちに14年をやり過ぎ

古巣の総合図書館に舞い戻って間もなく
タバコを止めたように2001年夏に仕事を辞めた

よせばいいのにどうでもいい無駄なことでも
のめり込んじゃう無償なひととき

さまざまに積み重ねこれ以上もうどうしようも
なかった場所から還ってこれなかったら

身近な事柄で手一杯でとても遠くまで

自在にあたまやからだ働かないだろうから
まずは暮らしの歳月の両面をどれだけ

ひとり自在に行き来できるかを楽しみにして

ひとまず人生設計や儲け話なんて糞食らえとは言わないが
きちんと働くことだけは貧乏人でもできるということ

極道をつらぬき99才で死ぬまで嗜んだ酒とタバコのように

晩年はいつも「南無阿弥陀仏」が口癖だった祖父さん

その遠ざかった暮らしぶりのA B両面が

馬に乗るようにバランスよく聞こえてくるようだ

(01.12.27)

月から眺める十字路で

師走といえばなんだか過ぎ来し方を振り返るようで
年末という日頃の暮らし向きのつけを数えているみたい

朝の買い物の行き帰りに歙崎山の稜線が雪煙をなびかせ
雪の山岳が赤く染まつた東の空を登る月の夕暮れ
慌ただしかった一年がつかの間背伸びをし
ひと揺れしてうつすらと沈黙の影に沈み込めば
やがてあたりの家々の窓や玄関から灯りがこぼれ

仕事納めの午後を訪ねてくれた知人と話せば
久しく職域や地域にもガス抜きする場なんか跡形もなく
点いたり消えたりする街灯のような物言いと
様々なやりくりとなし崩しの事象だけが喧しく

階下で飛んだり跳ねたり一歳半過ぎの
あくなきいのちもざわめく暮らしの渚で
この一年の漂着物を洗い流すように
いくつも良い年のカレンダーを出力し
ご縁をいただいた方々にお届けしたい

(01.12.30)

年を越した大切なもの

雪が降り積もった新年2日目のわが家は

数少ない親戚恒例の初顔合わせでにぎやか

昼前から深夜までお酒のたすきりレーでつなぐ

近年はとくに娘や姪に授かった幼いいのちがめでたきの主役

お互いの元気を健やかな暮らしを持ち酔った喜び

ワインや吟醸酒やスコッチウイスキーの空き風船に

Let's make it a good year! をしっかり吹き込み

めいっばい膨らまし流行の胡散臭い「正義」なんぞ吹き飛ばせ

予期せぬ雪で客足を奪われ売り上げが落ち込んだり

ままならぬ外国人労働者の仕事ぶりに困惑したり

のほほん顔の隣人にどこまでも振り回されっぱなしでも

どこか手の届くところにかすかに良いこともあるはず

たまたま手近で年を越した本から拾えば

それぞれが受験勉強期であるはずの

地方っぼい女子高生（加藤千恵さん）には

〈ついてない びっくりするほど ついてない ほんとにあるの？

いともかんとんに唱ってのけるまつすぐな若さがあったし

あたしにあした〉

街っぼい女子高生（綿矢りささん）には
風俗チャットネタで小学生と女子高生を絡ませ

「順調。チャットのコツ、分かってきた。あんたがはじめに教えてくれたように、やっぱり会話のリズムとか画面に文字を乗せるタイミングとかが一番大事だね。特にチャットセックスするときにはね。長い文を作ろうとせず、きやつとか、ああんとかそういう短い返事をどれだけテンポよく画面に乗せるか、そこがミソだな。」（77-78ページ）

なぐんて

スッキリ読ませる小説にまで「インストール」できる若い文体のしなやかさがあつた
今ここを生きる大切なものを手放さずそれぞれが年を越したさまざまな場所が眩しい
(02.01.04)

正月の内と外で

知ってました、お正月様は大晦日の日没とともにやってきたり

まあ確かめようもないことついでにもうひとつ

松の内を家でおとなしくしていることをうちづらといたりすること。

そういえば田舎でお正月を繰り返していた幼い記憶では

よく十二月三十日までに大掃除や餅つきを済ませてしま

なんだか大晦日はぼんやりやり過ぎしたり

一睡もしないで除夜の鐘の後で初詣に行ったりしてたみたい。

定年前に仕事を辞めて迎えた正月だとうちづらもそとづらもないよう

まるでゆつたりのおんじりり自家製ピント外れのお餅入り七草粥もどきをいただき

お袋の頼みで初外出の近所の医院の待合室はスリッパも足りないくらい

電話しておいた菓をもらうまでたまたまポケットの本を読み進んだ。

お疲れさまです、よろしくお願ひしますなどのそとづらは遠ざかったのに

休みめがけて本やDVDをまとめ買いするうちづらだけはまだ残ってた。

口説き、入学、就職、結婚、新築、浮気（不倫）なんてのはたぶん

その人それぞれの勢いでやれちゃうところもあるから、

うちづらもそとづらもへちまもあるもんねだろうけど、

破産や離婚も離職も当面したときはその人なりに勢いが失せているのに

無い気力を振り絞ってでもとにかく抜け切らなきゃなにも始まらない、

せつかく身軽になれたからにはサラリーマン期のへんな癖など脱皮しなきゃ、

この際ながら染み込んだそとづらもうちはずらもひっくりかえすようにしきりに手足を使えばどこへ抜けられるかがさしあたっての成り行き。

それからじゃなくてこれからのつん読みたいな本やCDの雑居ビルもどきでライスボールや高校サッカーやラグビーに一喜一憂しながらの
さしあたっての正月雑感とでもしておこうか。

(02.01.08)

初物の素晴らしさ

すでに10年を超えた二家族による志賀高原スキーツアーですが
まだ正月気分も残る1月の第2週の宿泊を確保してくれた
知人家族と一緒に志賀高原で最高の初滑りを愉しみ
家庭の事情や娑婆の何もかも下界に置き忘れてました

初日の焼額ゲレンデがカービングスキーでちよつと賑やか

2日目が昼下がりでまでガスったほかは雪にも会わず

閑散としたゲレンデをほぼ3日間でおよそ100キロ近くも滑ったろうか
近年のワンシーズン200キロ以上もなんとかクリアできそう

びつくりするくらい好天の3日目なんか終日くつきり後立山連峰越しに
日頃は縁がない後ろ姿を遠望できた立山の麓のゲレンデに通う前に
とにかく遅れてやってきたスキー漬け連休疲れを抜かなきゃならない
どうしようもない中高年スポーツ疲れ夫婦なんてお笑い種だね

熊の湯のレストハウスのシェフなんか雪焼けでまっ黒だったが

待ち時間ができるくらいリフトが混んでくれないと僕らのような

中高年スキーヤーはついつい滑りすぎて困ってしまうのですよ

ツアー中日の午後の疲れも横手山頂ヒュッテのパンとワインで持ち直し
5キロも続く雪質見事な斜面の感触を堪能できたけど

お袋を娘夫婦のマンションに預けたまま冷えきったわが家に

無事帰り着いた晩など夕飯をこしらえる気力も持ち合わせず

ヨメはんが電話して確かめたご近所の鮎盤に座れてホント良かった

お店の皆さんと年はじめの挨拶もそこそこにスキー談義の花びら

同行家族の小学生の力みも抜けてきた素晴らしいスピードバランスに

スキーを体得しつつある子ども達の最初の喜びが溢れていた姿を目の当たりにし
やってみて出来つつある嬉しさを素直に表現するのが上達の秘訣などと

話すうち焼き物に出された見たこともないビッグな^{はたはた}にびつくり

大粒のお腹の子なんか箸でつまむと納豆のように糸を引き

ちつとも珍しくない魚なのになんだか初物のようで

「はたはたのうた」で室生犀星がうたったのはいっただんな^{はたはた}などといささか酔いもまわってわが家が懐かしくなったようだった

初物といえば初滑りから帰った翌日に

暮れに注文しておいた輸入CDの半数が入った電話を受け

レコードショップで引き取りついでに見つけた

新人ピアニストのジャズアルバムを買って帰って聴けば

これぞ「処女作の見本」というべき出来栄も瑞々しい

達成感に溢れたピアノトリオ演奏を引き当てたみたいで

たちまち持て余し気味の筋肉疲労も揉みほぐされたみたいでご機嫌な気分だ

(02.01.17)

滑っても滑らなくても

大寒に入ったというのに雨足が強く

ときおり飛来する尾長から滴もしたたり落ちて

何もかも洗い流すように家並みも滲んで見えるなんて

これじゃ山の雪も溶けてしまえそう、

絶好のスキー日和に恵まれ大学センター試験日は

夫婦ともに都合良く1年ぶりに雷鳥バレースキー場に足を運んだ。

いつも荷物を置かせてもらい食事休憩もとったりしている

2階に上がり込む間もなくお店のお姉さんから弾んだ声がかかったりして

二人ともまだまだくたばるわけにはいかないねと苦笑いしながらウォームアップ、

それにしても人影まばらスケスケのグレンデ風景は一週間前の志賀高原と同じだけど

滑り心地はまるで舗装道路から砂利道に変わったみたい、

ゴンドラ山頂駅から極楽坂スキー場の尾根伝いに国体コースへ抜け降りた一本目で

もう麓の休憩所で売ってるはずの氷見の地ビール飲み心地が覚まされてしまった。

陰影豊かに聳える山岳から狭い富山平野を跨いで広がる海へと滑空するように

浮遊できる散歩心地のスキー場の眺望は志賀にも蔵王にもない立山山麓だけのもの、

身体も温まりパノラマコースの眺望と滑りを愉しんだところで昼飯に戻ったら

冬場のマストアイテムになってるモツラーメンを運んでくれお店の女将さんいわく

過ぎた三連休なんか駐車場がちょっと賑わったようだけど店はヒマでヒマで、

窓の外を見上げれば澄んだ空をパラグライダーがゆったり舞い続けて眩しいくらいだ。

零度以下でべたつかない雪質に2シーズン目のカービング・ターンをいろいろ愉しめた

午後の滑りもほどほどにひきあげチキンのチャーハンをつまみに喉を潤せば

ストーブを囲んで団欒する若いスキー客はインターネット談義の真つ最中、

本場のアメリカじゃユーザーが1億を超えお隣の韓国では国民の半分近くが使っているみたいだが、
流行も終わった日本では日常生活の場にインターネットが定着するかどうかの正念場なのだろうか。

われら夫婦で貸切状態の立山駅行きバスのわずかな時間が暖かく眠りに落ちそうな午後3時過ぎ

寒いから乗ったらと改札を通された2両編成の電車内は誰の眼にもとまらず、

ちようど飲み加減に冷えた白ワインのコルクを抜けば喉ごしも豊かで

香りも大窓小窓三の窓と剣岳の稜線を滑っているようなフィニッシュが待ち受け

やがて常願寺川を渡る鉄橋の響きにうたた寝気分も遠ざかってしまった。

(02.01.21)

音にまつわる些細ないきさつ

たぶん十代の曲がり角のいわゆる思春期でその人なりに生涯に関わる友人や好みの音楽の原型みたいなものが定まってしまう、かつてギターのうまい友人が中年にさしかかった休日の朝など大音響で浴びるロックがたまらないなどともらしたことがあった。

広いだけが取り柄の隙間だらけの田舎屋で数少ないジャズLPを響かせてはその虜になっていた少年の日々のとある夕暮れ時、

たぶんわが家の前を仕事で往来するうちに耳にしていたのであろう見知らぬ若い勤め人が一緒に聴かせて欲しいと上がり込んできたりしたがこんな好きな人がいるからにはきつと大嫌いな奴らもいるのが世の習わし。

二十代も後半の新築時に見よう見まねでリスニングルームを作ったりしたら当時働いていた工学専門図書館の二階の音響工学科のベースも弾く学生さんが寒い冬に訪れ周波数ごとの残響測定なんかをやってくれたこともあったけど、まだまだ映画や音楽が輝いていた一九七〇年代のわが家の狭いその部屋をいかにいろんな人たちが通り過ぎていったかもすっかり忘れてしまい、好きなミュージシャンや楽器についての語らいを覚えていてそのうちまた聴きに来たいといってくれた何人かはもうこの世にいない。

ジャズ不作の一九八〇年代のある期間のことでもう時効だから言っちゃうけど勤務先の医薬系専門図書館の閉館案内アナウンスのBGMに大好きだったビル・エバンスの珠玉のピアノソロを使ってしまったら、

とくに図書館を遅くまで利用する女子学生がこれいいわねと囁いたりイギリス女性の英語教師には音源のレファレンスを迫られたりでイギリスに帰った（かどうかは知らないが）今も聴いているだろうか。

仕事と本とジャズにまつわる拙文が載った図書館報を目にした

薬学部の先生にジャズ入門の手ほどきを乞われたときなど

どんな資料を渡したり自宅でどんなレコードを鳴らしてあげたか

面映ゆさが先に立ったりして細かいことは思い出せないけど、

その後東北の大学へ転勤された休日にはどんなジャズを楽しんでおられるかな。

ジャズがまた面白くなってきた一九九〇年代の半ばだったか

富大本館の時間外開館要員の一人だった英文学専攻の学生さんには

ジャンゴ・ラインハルトのギターやセロニアス・モンクのピアノなど

ちよつとコピーしてあげたけどもつと聴きたかったら訪ねておいでよ、

なんなら音楽好きの教え子と一緒にでもいいんじゃないかな

何と言ったって中学生の頃はいろんな出会いの場がその子の生涯を決めるかも。

お茶におやつちよつと小腹が空いたら夜食みたいにLPやCDを回し続ける冬の家暮らし

ひよいと耳にした古い録音なんかたつた数分の演奏に雷のように打たれたり、

たまたま図書館勤務の最後となった閲覧業務を一年ご一緒に働いた働きの新人さんみたいに

シフティング作業の合間にまるで音楽聴くことダメ子さんですと話してくれた表情とともに

今日も聴いた端から音楽はどんどん消えてしまつて二度と戻つてこない。

(02.01.24)

隅っこの雪明かりから

ほどよく降り積もった雪の反射が混じった日射が柔らかい日々には
20年ほど前に建て増した納戸の2階の狭い部屋の東の隅っこ

庇のある窓越しに縁側や母屋の屋根に積もった雪面が照り返す光線で
年を越してパソコンのまわりに積もりに積もった本など

あれこれ新しいページをめくりBGMに耳をゆだねながらの書物散策日和

正月新譜ではAkiko Grace / from New Yorkがいい！

今も書棚の本をどかして置いたボーズのウェーブレイオCDから

3曲目の映画ダンサー・イン・ザ・ダークのテーマ曲I've Seen It Allが流れる

生き続ければやってくる老化みたいにすべてに順調などあり得ないけど

ここんとこ風邪をこじらせ気味で電話もやっとだった娘の身過ぎ世過ぎや
数日前の朝なんか身動きもままならなかった階下のお袋の老化の階段など

あれこれ思いめぐらしたりする隅っこの居心地にはまってしまったりするから
冬場に週一の定番となっている氷点下のゲレンデや冷え込んだ体育館に出かけ

ひとまず身体を解き放してみるようなアウトドア・インドア感が手放せない

どんよりした雪空でも快晴気分みたいなのがフツーな日々のスポーツ中継

降りしきる雪上のNFLプレーオフとなったレイダース×ペイトリオッツ戦！

冬場のテレビ観戦の愉しみといえばアメリカンフットボールや

グラウンドスラムの幕開けとなる真夏の全豪オープンテニスからも目が離せず
スピーディなジャズ・クインテット演奏みたいなNBLのバスケ中継なども

雪が積もったり溶けたりの高屋敷の片隅から眺められて退屈はしてないけど
2月のテレビのソルトレーク冬季五輪中継にどれくらい夢中になれるだろう

食いつなぐのが精一杯で個室など考えられなかった植生の

田舎屋住まいの東向きの縁側の一隅を仕切り

出かける当てもない晴れた昼には遠く聳える立山連峰に登りたくなったり

夜ともなればいろんな植物や昆虫をスケッチして標本を整理したりで

そんな隅っこからやがて性に目覚め異数の世界へ飛びたつ前は

一晩で組み立てた鉱石ラジオだけが唯一の飛び道具だった

大学図書館の勤め場所をいくつか変わってみても閲覧室だけは

なぜか決まって端っこあたりから利用者で埋まっていったもんだ

愛聴盤みたいに手元に置きたくなるような一冊

『小説作法』の中でステイヴン・キングが書いていたけど

何はともあれ机は部屋の隅っこが一等いい

いいも悪いもとにかく事にぶつかりなるとかせざるを得ないときは

なぜ隅っこなのか自分に言ってみて聞かせるしかない

すべてから隔たってみる隅っこにはなかなか入りたしという訳でもないが

そこでやっぱり聴きたくなるのがルーツミュージックの響きとリズム

今なら「オー！ブラザー」のサントラみたいなアメリカン・ルーツ・ミュージックか

オル・ダラヤリチャード・ボナのようなアフリカン・ルーツ・ミュージックだね

いつか聴きたくなるような日本のルーツ・ミュージックはどんな隅っこから響いてくるのだろう

(02.01.28)

Don't get me wrong!

まさかまさかで呆気にとられたのは

テレビ高視聴率を保っていた小泉純一郎内閣パワーの供給源だったカンバン目玉の一つをいきなり取っ払っちゃったこと、戦後日本政治の常識たる「三バン」揃ってこそ渡る党派の波風を前に失って気づかさされる戦後初めてのカンバンを棄ててしまえば手垢まみれのジバンとカバンだけでどう政策を捌けるのか。

見るともなしにワイドショーをつけはなす朝から

「隆明網（リュウメイ・ウェブ）」編集作業に取りかかろうか、たぶん更新を終える頃は日脚も延びてきた1月も終わりそう。

またかという感想が先立ってやり過ぎしそうになったのに

東村山市のホームレス暴行死事件の引き金みたいに

市内の図書館でのホームレスと中学生達との

トラブル報道にたまたま引きとめられた恰好だけど、

暑さ寒さの時節柄はとりわけいろんな入館者に彩られ

図書館利用規則に明言された利用範囲も逸脱しがちで

日頃に倍して注意仕事に多才な気配り館員もいるはず。

図書館の資料利用者と当面の入館利用者という

ありそうな構図からいざこざを起すなら外でやれば

そんな場当たりの回避以外の役回りを誰に求められようか、
ともに入館者だったホームレスと中学生達との対立がきっかけで
館外暴力へとエスカレートするなんてとても関知できない。

司書たるモノ経験を積み積むほど

図書館の仕事はうまくこなせるだろうが

共有すべき暗黙の利用態度が当てに出来なくなった

入館者対応作業だけはそうはいかず年ごとに、

ホームレス入館者に忙殺されそうな都市部の図書館員もいるし

終夜開館に居座ってしまう利用者に困る地方の図書館員もいる。

中学生達の割り込みといえは覚えがないこともない、

土曜の午後のスポ少バドミントンコーチを一人でやってた体育館で

やってきたスキンヘッドを交えた中学生グループのいきなりバスケの気配に

子ども達が怯えてコートを取られないうちに飛んでいって

何をいったか忘れたがとにかくボスらしき中学生にやめてくれるように話した。

閲覧室の見回りも仕事のうちだった頃の僕の対処といえは、

効果てきめんの利用者への注意みたいな難しいことはないから

きれいな感じの利用者とは差して相対しないこと、

できれば第三の利用者にも聞いてもらえるような状況で

間違った行為を正す距離感を相手に取らせるよう手短かに

いろいろ工夫し繰り返し返しても利用者の拒む目線だけが残ったようだ。

検索端末の不正利用を日課にしていた留学生の場合など

イエローカードの連発を勝手にレッドカードに切り替えてしまったようで
ひよっとしたら国際交流に反した事になったかもしれないな。

(02.01.31)

とんだ見込み違い

これ以上は望めないくらい快晴だった金曜（2/1）の昼間はおいしい散歩
しばしフリースタイルの公開練習に見とれたりした土曜（2/2）の立山山麓ゲレンデ散歩
日曜にはやってきて食べそして遊びほうけるマー君と散歩したりすると、

幼児が身近な事柄を飲む姿なんかあるべき老後の生き方の見本というか
お手本にして取っておきたいくらいだけど孫の成長とともに忘れてしまえそう、
昼ご飯を食べながら動かなくなったマー君の昼寝の間にテレビ観戦した
ラグビー日本選手権（2/3）のサントリー対神戸製鋼戦は期待に違わぬ面白さだったけど
立春の朝からのスーパードボウル（2/4）中継は昼飯が手につかないくらい痺れまくった。

200近くもあるといわれるサインプレーに精通しているわけでもなく
鼻肩のチームができるくらいいろんな試合の中継も観てきた訳じゃないのに
アメリカンフットボールほど作戦とリプレイの面白さを堪能できるひと時はない、
下馬評や自分なりの予想をもの見事に裏切ったとびきりのゲーム展開とくれば
悪くはないはずのハーフ・タイム・ショーのU2ライブも上の空に響くばかり。

堅い守りから絵に描いたような反撃で前半をリードしたペイトリオッツだったけど
今シーズン最高の攻撃力を誇ったラムズは第4クォーターに大反撃してITDを返し
終了1分30秒前にQBワーナーからWRプロールへの26ヤードTDパスを通し
17-17の同点になったときはこれでオーバertimeと早合点したのが間違いの元。

足元のおぼつかないお袋の台所姿にちよつと手を貸した隙に劇的な幕切れ、
ゲーム時間の支配が巧いペイトリオッツが再びラムズ陣に攻めこんだ残り7秒
最後のプレーでキッカーのビナティアエリが48ヤードのFGを決めるとい
うなんとなんとなんと決定的な最高の場面を見逃してしまったではないか！
もう悔しくて悔しくて夜の再放送なんか観てやらないけどビデオだけは録っておこうか、

すべからく何事もレギュラータイトムで決着をつける基本技から

あたかも人生に延長戦は無いといわんばかりの結末まで、

お金で時間と距離を稼ぎだすゲームプランニングばりの人生模様の幕切れ。

(02.02.05)

ネットサーフィンに飽きたらとにかく1件検索ゲーム

風邪がひどいときは何もかもかみだけど

とりわけパソコンを立ち上げるのがおっくうになる。

画面から飛び出す磁気に上半身が過敏になるからかもしれないから

何らかのプロテクターを工夫してみればいいのだけど、

直つてしまえば終日相対していても大丈夫だからまだ試したことはない。

以前というか色んなゲームにハマッタ頃だとまずそれで肩を慣らしてから

勢いをつけてパソコンを使いこなせたけど今じゃゲームにも見放され、

これはというゲームを見つけても機敏な反射や根気が続かなくなってきた

どうもスポーツで気分を変えたいのをゲームで代用しようとするみたいで

風呂を使えないから入浴シーンのあるビデオ映画を眺めているようなことになる。

常時接続になってからだがお気に入りの検索サイトを使った

どうしようもない気分直しゲームをしていることがよくある。

レファレンスツールとしていろんな検索サイトを見つけては試した

図書館勤めの頃から一つだけ使い続けているサイトの検索フォームに

普通名詞をキーワードに二つ三つ放り込んで検索ボタンをクリックしている。

検索結果が1件だけという結果が表示されたら終わりのゲームだけど

幸か不幸かそんな巡りあわせはなかなかやってきてくれそうにない、

数日前も2件という検索結果に当たったりしたけど日を改め同じ言葉で

またやったら何件に増えているか誰にも分からない宇宙みたいに広がる
インターネットにひとり向きあう逆ロシアン・ルーレット感覚がすてがたい。

そのとき思いついた検索語というキーワードを弾のようにパソコンに込め
電脳宇宙の網の目から1件を見つけ出すリアルタイムゲームなどといったら
とんでもない風邪ひきオタクに聞こえそうだけどそんなことはない。

ご近所の肉屋さんから買った牛肉が柔らかく焼き上がったところで
飲み続けたらきつとまともな性格が約束されるようなアラ探しの出来ない
上質赤ワインから溢れ出す申し分のない時間にひたってみたり、
とりあえず上等な飲食補給で風邪による衰えからの回復をはかったり
とにかく医者や薬に金を使わずに景況の好転も願ったりしているのだ。

いくつになっても語彙が乏しい自前の検索力だが時にエッチ系の言葉を
いくつか組み合わせると案外いい結果が出たりするところを見ると、
なんでもありでとどまるところのない電脳春画網の膨張に比べりゃ
そんな画像をキャッチしてくれる電脳言葉の網はまだまだ発展途上だね。

(02.02.14)

If Dreams Came True

「雨水」に雪が降りしきる高屋敷の午前の明るさは
どこかでフェルメールの画集が開かれたような静けさ、

これ以上ないといったゲレンデ日和に恵まれた

土曜（2／16）の日中の疲れを癒すように夕食後は

20時よりオンエアされたBS朝日のジャズ番組を楽しめたが、
めつたに耳にしたことのない五十嵐および鈴木両女性ボーカルに

寺井尚子のバイオリンと国府弘子のピアノが加わった

日本女性4人による男抜きジャズセッションは感慨深かった。

いくつになっても女は苦手の最右翼だけど

今どきジャズシーンに限らず男より女の生きの良さが目立っている、

いつだって性を意識して取捨選択しているわけじゃないのに

こここのところ観聴きするもの演じるもの読むものすべて女勝りのようだ。

なんだか漫画が恋しくネットで探し求めた坂口尚の

『バージョン』、『あつかんベエ一休』や『石の花』を読めば

いい作品には男も女も作者の性はいっさい関わりなしなんだけど、

こと現実では通り過ぎた職場の性にまつわってひっかかっているのが

21年前の夏の筑波での全国中堅大学図書館職員長期研修の終幕でのハプニング。

ここからはオフレコという了解で始まった全体ミーティングの場に飛び出したテーマが「(年季の入った) 女性職員が(若手) 男性職員をダメにする」で、そんなことぐらいでダメになる奴ははじめっから図書館職員はやれない・・・そのくらいのこととも言えない僕は結構真面目な現職男女の発言に聞き入るばかり・・・終点が待てず途中下車した今なお女性優位の職場の謎として保存しておくしかない。

敗戦の年に引き揚げ3年住んで通いだした田舎の小学校そして中学校を通してとにかく余所者ということごとく虐められること多い日々だったが、ときおり目立たぬようやさしく手をさしのべてくれたのはほとんどが女だったし小学時代のわが家の家計まで心配してくれた同級生も駐在さんの娘だった。

いつどんな出会いと別れを生きようとも性にまつわる花は時分の花や一方の花を愛でられたらそれで良しとしなければなるまい、できれば女も男もほんとうの花を秘めた性として舞うことがあれば上出来か？

ひとたび職場で男や女の身体生理や趣味性だけを盾に行動されたらそ知らぬ顔で打つ手打つ手がその場の短絡連鎖のドツボにはまるばかりなすべき仕事はもつれことの次第も善し悪しを超えどんな性もいずれ退散、心底怖かったのは余儀なく遭遇した男女変わらぬ生身の「人」が演じる諸行無常！ならぬ堪忍するが堪忍のような他者失調症に追い込む性悪に巡り会えば誰だっけ対人恐怖症の季節が過ぎゆくのを待つしかない。

きみがある人に気持ちや言葉が通じないと思っっているように相手もそう思っているに違いないと気づくことがあっても

もうやり直しはきかないから黙ってやり過ぎすだけ
どこまでも愛は乏しく情も薄くましてころからの言葉など・・・

物語があるわけでもなく劇的なことが起こるわけでもない

そんな毎日のページに描き込まれるのはその時々々に弾け散る誰もが生きる歓び、
金さえあればどんな快楽や楽しみも約束されたような今日この頃
生きる支えとなるような理想も未来のイメージもまだ見つかっていないから。

(02.02.19)

今どきのDIY

近頃そんなに嫌なら見たり気にかれたりしなきゃいいのに
つまんで丸めてゴミのようにポイしたくなることありませんか。

わざわざ人気の少ないスキー場へ遊びに通ったりしていても
ちっちゃな子ども相手に怒鳴り散らしているまだ若い親たちに
耳をふさぐどころか見聞きしたくない姿を見せつけられるし、

家においても耳目に入ってくるS木M男衆院議員の今どきの姿や態度はまさに

「Donaru (怒鳴る)」「Ibaru (威張る)」「Yobitsukeru (呼びつける)」の合わせ技、
通った職場をはじめ娑婆のあらゆる場面で身に覚えのある裏DIY指標のようでウンザリ。

確か校内暴力や家庭内暴力が急増してきた1980年に転勤になって

真新しい医薬大図書館のスタッフルームのテーブルに置かれていた

いかにも手製の三角筒に書かれたD(O) (It) Yourself)を見ても

なんのことやらでちっとも新しい職場の心意気に気づかない僕を

新緑のキャンパスへ案内がてら昼休みの散歩に連れ出し

あれは日曜大工の標語のもじりですよとさりげなく教えてくれた

英語も堪能でサービスの機転が利いた女性スタッフはその後どうしているだろうか。

まだ開館して日も浅く「利用者を手ぶらで帰すな」がその時の

窓口サービスの合言葉でそのためのDIYだったんだけど

気がついたのはサービス現場での失敗をいくつか重ねてから、

10年あまり頑張ったインサーストレーニングも立ち消えになる前にいつの間にかテーブルの上からDIYが消えてなくなっていた。

何処に係替えになろうとも利用対応レベルを高めるDIYにはほど遠く

そんな職場内外をめぐって人に対するDIYだけは勢いがあつたが

その場の風向きに合わせて木偶の坊のようにわが身をゆだねてよしとするだけ、ほとんどがいつさい何も考えないから何もしいまま居座つても

好ましいとされるような場面も日常の処し方として大ありだが

分かりません出来ませんの一点張りで何処までやり過ぎせるか。

どのようにも出会うその場で自分のすべては成り行き任せ

いつそどこ吹く風の楽だ楽だアゝ楽だに跨ってしまえば

知らぬ存ぜぬでやってきました「タナボタ」砂漠をはるばると

ねえ20日の男子ショートトラック競技のブラドバリー選手の勝負運だけど

あんな「タナボタ金」の英語方言は「That's a gold windfall.」でいいんかい？

かつてDIYを教えてくれた懐かしい女性スタッフに尋ねてみたい気もする。

(02.02.25)

「売上高85%減」消費者パワー

とうとうソルトレークの日本選手団からは手を叩くような輝きもなんにも伝わってこなかったし、日曜日（2/24）のオープン戦で巨人が近鉄相手にとんでもなく打ちまくっていたけどなんかパツとしない。

オリンピックのVTR放映か国会中継かどっちにしようか見迷ってむなしあくびを噛み殺し迎えた週末に雪印食品解散のニュース。

うち続く企業の倒産、だったら再建の見込みもなきにしもあらずだがこれまで馴染みの薄かった企業の解散にはちよつと立ち止まった。

牛肉偽装事件が売り上げの落ち込みを招くことは承知のうえの一ヶ月で雪印食品立て直しどころか事業継続そのものが粉々になってしまった。

一社に的を絞って束になった消費者がひとたび不買に走れば、上場企業だろうがアツという間に潰され4月末に巷の藻屑と消える。

政財界は「異例の事態に発展」しただけと見なしているようだがここまで消費者大衆がもてるパワーに目覚めていなかっただけ。

食うため以上に働いてる消費者大衆が財布の紐をかたくかたく数ヶ月に渡ってしめてしまえば、

企業の一つ二つどころか政財界の存続自体が危うい。

戦後の経済社会が登りつめた高度消費資本主義社会の前面に押し出され経済システムを動かす舞台装置の命脈を左右する究極の消費の選択性をしっかりと握らされた大衆の姿がひとときわ鮮やかだった2月の終わり。

昨日発売のパット・メセニーの新作『スピーキング・オブ・ナウ』の響きとあいかかわらず見事なコマ割りと吹き出しのリズムが素晴らしい漫画、

高野文子の新刊『黄色い本・ジャック・チボーという名の友人』のページにゆったり入り込めば気分はもう春のようで部屋も衣替えしたような感触が嬉しい。

『ドキュメント吉本隆明』第1巻の宅配便を待つて見下ろす

雨上がりの庭先に雉や尾長がたむろしていて賑やかなひととき、

2月分の「隆明網（リュウメイ・ウェブ）」更新作業の手もとまってしまふ。

(02.02.28)

そろそろ退屈してませんか？

そろそろ庭木の雪吊りや背戸の雪囲なんかもはずしたいくらいあたたかい土曜（3/2）の昼前に近所のお店で待ち合わせ、扉が開き「お待たせしました」とあかるい笑顔で迎えられたのは昨秋の開店からランチが数回にディナーはまだ一回きりだけのご近所での繁盛を眺めていたいお気に入り伊太飯やさん。

昨夏に退職した際に印鑑を預けた後任係長からメールをもらい真つ先に浮かんだお店でワインを添えランチをご一緒する

こぢんまりとした相席に落ち着けばその後の職場話の枝葉が伸び、
「そろそろ退屈していらつしゃいませんか」と刈り込まれたときは前菜を口に運ぶ手がとまってしまうくらい戸惑ってしまった。

帰り際にいただいた鉢花とお菓子をテーブルに書斎でくつろいでその場で巧く返せなかったもどかしさをふりかえってみようか。

確かに腱鞘炎や膝など身体の故障や体調も不良な毎日には退屈したがやがて通院から解放され毎日の8時間が思いのままになってからはいろいろ助けられ我が手で「引退」という名の老後の線が引けて、これまで知らなかった原点に目覚めるような感触から起き出す毎日に初めて知った暮らしが単純になり定住の重たさの影や形も薄らぐ歓び。

印鑑と一緒に別れ昼食会後のスナップ写真もいただいたけど、三枚ともやつれ生気が失せた退職日の自分の姿にあきれ果て、退職前後の心身の不調や落ち込みからの心身の回復ぶりもとにかく仕事を辞めてこそこの今日この頃でも嬉しい。

家と職場を行ったり来たりする定住にあぐらをかいていろんなフットワークも衰えてきた自らの暮らしぶりにケリをつけさせてくれた契機の不思議にハッとさせられ、自在な生活行動の見通しが曇りがちだった瞼も洗われるようですっきりした毎日に退屈どころかちょっとしたい気分だ。

昨年の9月はボブ・ディラン4年ぶりの新譜“Love And Theft”が聴けて身体も若返るようだったけど冬の散策で見つけたそのライブ盤みたいな“Bob Dylan Spokane 2001”2枚組CDを聴けば春に向け血も騒ぎだす。

小6の頃から稼ぎ始めた毎日で社会的な約束事を熟知しつつそんな枠組みのらち外にいる方が楽だと気づかされた資質にたどりついた自覚的な生活感を繋ぐべきへおいも近いけど、いつも身近に胃袋やこころをぐっと掴んでくれるものが欠かせずたまたま黒田硫黄のマンガ『茄子』を読んでフムフム感じたり掴みだせる目標なんてまったくくないけどいつも何かしていたいのさ。

(02.03.04)

道草もいいかな

さあ滑ろうとしたら履き慣れたスキー靴がひび割れ、洗濯に取りかかろうとひねったカランがポロツともげ、洗面台の水漏れ手当中に給水管がクシャツと折れてしまい、背戸の雪囲いを外すのを待つて穴のあいた雨樋を修理、あれこれ経年疲労が目立ってきた家まわりにも露の臺。

メインゲレンデを外れ迂回路の木陰のアイスバーンから日差しが照り返すシャーベット斜面へ抜け出てみたり、普段は通らない道を探る自転車散策の土地鑑が狂ったり、ゲーム前の基本練習をたつぷり相方ともども汗を倍増させたり、窓越しに眺めるのと出かけていくのとではずいぶんやり方や通り抜け方が違ってきってしまうのも春先だから。

保育所のお昼寝のように気持ちいい昼下がりに
桜の頃に死にたいと詠った西行の夢見から、
またも愛聴盤をターンテーブルに載せるように
古びて黄色くなった漱石の『門』を開く。

とうとう底をついてしまった春闘の向こう側へ、
あまりに見直さなきゃならん事柄がありふれすぎて
ごまかしや内部告発による波紋も届かない底の澱み。

君と一緒にイルカの呼吸で潜って行けば
此処は何処ぞの処女雪滑走の季節の変わり目、
流れに花が似合うように人には道草が欠かせない。
(02.03.14)

近くそして遠い春

今年の春一番（3／15）は夜に入って物凄い雷雨のおまけ付き、データを加えるべき「日本国内の大学図書館関係個人文庫」の更新作業をしながら立山山麓ゲレンデの溶け具合が気になったり、北から下ってほぼ関西圏まで私大図書館文庫データを追加できました。

そういえば土曜（3／16）の雷鳥バレーは関西ナンバーの駐車が目立ち雨で叩かれたにしては昼前までの上部ゲレンデは快適でしたが、

電車＋バス＋1日券＝5,500円ポッキリで今年も楽しませてもらえた富山地鉄のスキークーポンの存続を願って我ら夫婦のシーズン終了、

打ち上げ気分で立ち寄った地元の寿司屋付き合いは、スキー歴より長いけど暮らしのちよつとした物事との出会いから、かけがえのない歓びに恵まれたりする裏にはとんでもない持続の目立たないエネルギーなんか隠されているようです。

雑誌を買いに出かけた近くの本屋でふと手にした写真集、

チエルノブイリ近くの小さな村の人たちが汲み上げる

小さな泉がなぜか放射能にも汚染されず、百年の泉と名付けられそこに生まれ住み続ける無言の意志がじわじわと溢れてきて

立ち見からしばししゃがみ込んで見惚れてしまった。

好いもの見つけた気分で帰れば庭先には緑が萌え花開き
さつき見たばかりの遠い頁の向こうにはどんな春が訪れているか、
遙か彼方で今日も自然と人とが交わる持続の姿へ誘い出す
写真家の力量が観る者の眼を新しい季節へと旅立たせてくれる。

(02.03.18)

最近、何が良かった？

なんだか昨年の暮れから追っかけ気分の映画だったけど
黄砂まみれの車も走り回る馬鹿陽気の3月に出かければ
さびれつつある目抜き通りから入ってびっくりするくらい、
上映館内の改装ぶりに負けない出来栄えの2時間が面白く
まるで歌や踊りのないミュージカル仕立てに極まった。

ドギツク赤裸々で残酷きわまりないあるがままの大衆像や
いくぶんかは理想的にしか描けないそれぞれの大衆像から
しつかり距離を置いて綴られる下町界限を彩る人物模様が
主人公「アメリカ」の日々の振る舞いによって織りあげられたり
あっけなく崩れたりいま・ここのいのちに触れるほど
精彩を放つエピソードが語られるわけじゃないのに
見終わったところから地続きに過ぎた挿話もこぼれそう。

小学生のころ初めて観た映画「オズの魔法使い」から
読み出した止まらなかった少女コミックも途切れがち、
太宰治の『女生徒』から生身の女までの距離にドキドキしたり
貧乏物語に飽きるくらいファンタジー&ホラーに狂ってみたり、

中学生で最初のボーイフレンドを家に連れてきて以来
娘は必ずといっていいほど彼氏を家族にひきあわせ
何人かはバドミントンやスキーまで一緒に楽しんだけど

不意に男と一緒にになりたい告白パンチをもらに食らい
本命だけは分からなかったという迂闊さ加減にあきれたが、

この頃はわけもわからんドイツ語やポーランド語で歌ったりする
欧州あたりのジャズCDも手に入れてとてもじっくり聞こえ
しょうがないくらいあちこち目立つ癒し系なんてくそ食らえだ。

(02.03.22)

猫と車

どこから家に入ったか先日から小さなネズミが横行しはじめ
3匹ばかり退治したところで田舎時代の拾い猫「チビ」を想い
柿の木に登って抱いている写真を探せど探せど見つからない。

忘れもしない家の前でチビが車に轢き逃げされた時なんか
猫嫌いだつた祖父さんも涙ながらにお経をあげたくらい、
まさに働きはじめた頃の「失恋」以上の「別れ」となったようだ。

比べるのもなんだけど週末ごとに娘と一緒にやってくる
2才間近なマー君に負けないくらい家族と馴染む猫なんて、
この世に2匹と居るはずもなくとうとう猫を飼えなくなつた。

アルバム交じりの本の山積み中ほどに娘の置き土産の一冊
沢野ひとし「カレンダー」『21世紀まで』の数字の羅列を見ていて、
富大前横断歩道半ばで過去が一瞬に弾けるように右折乗用車に
はね飛ばされ「チビ」の後を追いそうになった一瞬の出来事が
1969年6月28日（土曜）の誕生日だったことが判明したが
家中が嘆き悲しんだ「チビ」の命日はどの頁からも推量できない。

幸い1ヶ月余りの打撲ですんで後遺症も免れたようだけど
「チビ」の交通事故死だけは今にしていえば「PTSD」ばりの
自動車免許証取得「障害」として残ったのかもしれない。

10年ほど前に飼い猫が轢かれて死んだ場所に近づくと
息苦しくなったり倒れていた所を歩くこともできなくなる
ある漫画家のエッセイを読むまでは気づかなかったのだが、
これまで「たまたま車に縁がなかっただけ」で通してきた
免許を取らない理由があることをひた隠しにしてきたみたいだ。

先ごろの北日本新聞社ホール『蝶の舌』上映を見逃してしまい
発売されたばかりのDVDを買ってきて観たばかりだけど

少年の「心的外傷後ストレス障害」になりそうな老先生との交流が
スペイン内乱前夜の揺れ動く村人と自然を背景に息づまる呼吸を響かせていた。

(02.03.26)

何がどうして狂い咲き？

体育館で子供たちやご婦人相手に汗を流したりしているともう春を通り過ぎてしまったみたいだけど一歩外に出れば例年は3〜5月と咲き進む花々が一時に揃うご乱調ぶり。

昨春に小泉・真紀子の両輪を咲かせた高支持率スタート政権も半年後の同時多発テロ事件で日本国籍の犠牲者に対する責任を真つ先に言明&追及できず米国のお追従に終始するばかり、それでも「聖域なき改革」の矛先には期待が持てた。

はじめて官僚社会の象徴に戦いを挑んだ紅一点は

この世で一等頭がいいと信じ込んでいる役人ほど始末が悪く一般大衆を馬鹿にするだけで実情を理解しようとせず事あるごと醜く硬直した自己保身しか辿れないご乱行をしつかり見抜いた覚悟で国民にさらけ出そうとして、

「この現実社会で、味方は自分と家族、あとはみんな敵ばかり。」と言つてのけた。

いつもどこかで何かがおかしくどこまで正常かを見極めちやんとした調律師の資質を花咲かせることなく

党内抵抗勢力と官僚首脳の外圧力のハサミで
斬って捨てた後の祭りに森羅万象のテンポも狂ったか。

不良債権処理オンリーで新しい不況対策などどこ吹く風の
のほほん顔からどんな切実さを読み取ればいいのやら、
リストラで解雇されもう1年になるあの非常勤の華はどこで
どのように滅びゆく日本の春を迎えているだろうか。

(02.04.05)

「反省しないことと、あした何があるかを考えない……」

これは「笑っていいとも！」5000回記念のタモリの発言、この後に「……刹那主義が大切。スタッフが苦労して、タレントが楽する番組が一番いい番組です」と続けたのが、なんとも笑える「先週のお言葉」として忘れられないのだが。

放映日はいつだったかテレフォンショッキング出演中の大竹まことがおそらく『幸福論』の吉本隆明をネタに振ってみせたが、まるで聞こえなかったようにやり過ぎしたタモリの芸というか、長寿番組を持ちこたえる「知」に対する放棄の姿勢があった。

乱れ咲きの春に浮かれ踊れぬ見猿言わ猿聞か猿もどき
何かを棒にふってまで手にした「学歴」なるもの
その有効期限も社会の入り口でもはや怪しくなるばかり、
後生大事に振りかざせど労働現場じゃモノの役に立たず
処世の柔軟さを邪魔立てするだけでいかにも窮屈そう、
知識や学歴は放棄してこそ意義有りて抱え込むものじゃない。

公立学校完全週5日制なるものが目指す「ゆとり教育」も
悪くないけどいつそのこと週の半分を休みにしたら、
とにかく怠けたい奴にしる何事かやりたい奴にしる
どっちつかずにしる誰もが徹底した「ゆとり」に向き合えようか。

学業より重要な労働日だって土曜が隔週休みになり
やがて完全週休2日制になったときはどうだったか？
「ゆとり」どころかかえって制約が増えて縛られただけ、
いろんな垣根を取り払ってこそやりたいことが見えたり
勉強や仕事以外の事なども余裕のよっちゃんやれる。

図書館なんぞが加担してまで生涯学習なんぞ
人生を墓場まで学校化するだけの馬鹿げたこと、
いい年して近所づきあいや家族や老人とも
まともに付き合えないおかしなつまらない輩が
「時間」を持って余すばかりじゃ貴重なセンスも途絶えるよ。
(02.04.08)

「阪神」半疑

近くを走る草島線にはもうハナミズキが艶やかに咲き揃ってるが「パンドラの匣」ならぬ新年度のフタが開いた途端、メガバンクみずほ銀行のシステム障害なんか長引きちよつとした社会の不整脈みたいな金融不安報道だ。

UFJの場合はシステムが三和も東海も同じメーカーでサービスも東海が三和にあわせ早めに復旧できたのに、第一勧業（F社）富士（I社）興銀（H社）という三行ばらばらメーカーのシステム統合だったからか？

各社とびぎり優秀な開発スタッフやSEで固めた病院や銀行のシステムサポートがうらやましいくらい
大学図書館の業務システムの不具合やトラブルに泣かされたけど、まるで決済システムが使い物にならず他行への乗り換えもままならないなんてクリビツテンギョウなんというお粗末！

設計の行き届いた移行プログラムと完べきなデータ移行を済ませしっかりと行き届いたテスト稼働で動作確認さえしておけば、なにも国会くんんだりまででかけピンボケ答弁を曝してまで、こうまであちこち次から次へとひきもきらず後を絶たない。かつての「識者」たちの情けない実態を知らずにすんだのに。

誰だったか「春に三日の日和なし」なんていうけど

春雨に煙る日は買ったばかりの児童誘拐モノミステリーも手放せず

MLBマリナーズ×エンジェルス初戦（4／9BS1）を観戦すれば、

古巣相手に入れ込むあまりのボークなどものともしない長谷川投手が

「先発」の粘りを受け継ぐ頭脳投球で「押さえ」にきっちりつないだり

開幕躍進中の阪神タイガースに劣らぬ気迫の野球も面白くなってきた。

(02.04.11)

時には当たり外れもいいネ

遠くの山並みの麓の雪化粧が消えていくのにあわせて
日一日と庭の新芽もそよ風に揺らめいているようだ。

一週間ほど前に某サイトを覗いて知ったY氏の新聞連載開始情報！

電話をかけソッコーで購読紙を掲載紙に切り替えた夕方に届いた
紙面のどこにもお目当ての署名記事は載っておらず読めないというお粗末。

全国紙といえども紙面構成が全国均一ではないなんて

合点承知の介での「はやとちり」の赴くまま毎朝開く紙面から
どこか違う記事の趣が漂いこれまでの購読紙と読み比べてみたり、
かつて祖父さんが愛読していた頃とは違ってあたりまえ
とにかく紙面のほとんどが記者の署名入り記事で埋まっている。

「私、負けへん…容疑の5少年告訴」(4/12付)における

先輩から呼び出され性暴力を受けた中1女子を扱った記事など
署名記事ならではの踏み込みを見せその翌日にもフォロワー記事が、
女子スピードスケート三宮選手の引退についてはどうだろう
二人の記者が違った目線から写真入りの囲み記事を捧げていて
読んだご当人もファンもきつと納得の新聞報道となったことだろう。

「あなたの天井は、わたしの床」なんて歌もあったけど

「真実」も「事実」も人の数だけあったほうがいいではないか、

「白」か「黒」ばっかりで中間のグラデーションがまったく掬えないというか抜け落ちてしまったような昨今の飽き飽きするほかない三面記事報道には食傷気味だったから。

大正生まれのお袋の「老い」と一緒に暮らしたりしているとクルト・ワイルの楽曲なんかがしっくり響いてくるようで、新旧特集アルバムを聴き比べたりまだ手にしたことのない

『Mack The Knife and other Berlin Theater Songs of Kurt Weill』を思い浮かべたりしているところへ新たな命の知らせが届いたばかり。(02.04.15)

喉ごしも切り替わりそう

こんなに暑さ寒さのチャンネルを争う四月ともなれば
熱爛からビールの切り替えに戸惑う晩酌かな、

なぐんてことはすつかり忘却の花びらみたいだけど

夕食後の一杯はスコッチかジントニックかで迷ったり、

飲み友達みたいなヨメが見つけてきた半球状のグラスから

氷で引き締めたスパイス産の香りが立ち上れば

初夏に向け祖父さんに連れられ辿った山の下草刈り、

遠い遠い森林浴みたいな情景が薫ってきたりするのだ。

明治十一年生まれの祖父さんの場合は百歳の1週間手前で
畳の上の大往生だったけど毎日日本酒一本やりの量が減って
やがてコップ半分になりそして一升瓶がそのまま手付かずに。

あんな真似はとでもできそうにないけど遅ればせながら

ある日赤ワインとの相性の良さに体が目覚めたみたいで、

一杯だけじゃほんとうに美味いかどうか分らないくらい

老いらくの恋に狂う境地にはほど遠い体力不足気味だが、

なにごと支払っただけしか味わえないとは言え

人も世も底に溜まった澱もとても飲み尽くせないから

せめてボトルぐらいは空にしてこそ見つかった味わいの日々、

ひよつとしたら究極の酒の呑み心地みたいな手前で
とりあえずふらふらしながらも一緒に未知なるボトルを
傾けあつたりしてくれる家族と今月の記念日に乾杯を！
(02.04.18)

通り抜ける風に

好ゲームが続いたMLBマリナーズ×レンジャース第3戦中継を見届けついでに土曜の夜に愉しんだ綾戸智絵ライブ（WOWOW 4/20放映）のビデオを見直し2階に上がったら毛勝や釜谷の山の骨格がやけにくつきり残雪を際立たせ、

開け放った窓から風とともに鳥の声や家を建てている音が通り抜けたり静かに乾いてく午前のひとときはコーヒーの香りにピアノやギターのトリオ演奏を絡ませては積ん読の山に分け入ったりするわが家のたたずまい。

若書きの設計図を11枚もしたためそれぞれ棟梁が見積もってくれたいきさつから妥協の一軒家の住み心地は決して悪くはなかったけど、できれば家を建てる前の春夏秋冬をその場で過ごしてみること、そうすればきつと生老病死をめぐる暮らしの入れ物としてわが家のあり方にもっと近づけた建て方ができたのではなかったか。

唯一の取りえは木造にしておいたから増改築の折々に住んでみて気づいたことを多少なりとも手直してきたぐらいだろうか、昨年あたりから近所の宅地造成が賑やかになってきているが、総2階でファッション性豊かな建て売りと注文住宅の外観に負けない家の向きや間取りから取り残された大事なものがあるんじゃないか。

子育てと一緒に大切なことほどやり直しが効かないから仕事にかまけ見逃したり聴きのがしたりしてきた表現作品などを

探し求めたりどうでもいいような後ろ向き_の愉しみ方もいいけど、
そろそろくたびれたサイクリング車をチューンナップするように
どこかで〈現実〉と握手するような無駄な積み重ねもしていたい。
(02.04.22)

飛び込み際の運

連休前の穏やかな日には山菜取りもお似合いだろうけど、田舎住まいの頃に八百屋に売って小遣い稼ぎまでやったせいか、誘われたって行きたくないから家においてMLBの球運を映したり窓から風を入れあれこれ片づけものそのほかくながら作業。

独特な弧を描いて富山県営球場のバックスクリーンに飛び込んだ王選手の本塁打（対広島戦大石？投手）に劣らず美しいイチロー選手の3塁打のつるべ打ち、そして見事なバックホームの球筋に感心したりしながら乱雑にたまったCDやビデオなどを片づけていたらガタンと音がして何やら黒いものが飛び込む窓際。

初夏に向かう図書館の窓際にも予期せぬ飛び込みが！？小さいハクセキレイから大きいキジやヤマドリなどが命がけ、閉まった窓に体当たりの後始末もボールなんかだったら弁償にまで事が及んでも窓際の利用者が無事で運がよかった。

携わった窓口業務で驚いた飛び込みのひとつは強運の学生さん！土曜の深夜にバイクで図書館前の階段を駆け上がった勢いで玄関左横の畳より大きな強化1枚ガラスを突き抜け、ぶつかったロッカーをクッション代わりに壊しながら

滑った床を傷つけカウンター近くの柱への激突は免れ
Tシャツ1枚にヘルメットなしでかすり傷で済んだなんて。

夜が明け雨も上がってとりあえず自転車で駆けつけ
日曜開館に支障がないか確認作業や掃除を済ませたら、
おそらく十数万円の弁償で済むなんて飛び込んだ学生さんの
一生分の運がこれで飛び散ったんじゃないかと気づかわれた。

床に落ちた飾り物がカラカラ転がったわが家の
窓の外へと運を見極める間もなく黒い影が消え

庭の緑の陰を走り抜けたのはどうやら猫のようだった。

(02.04.25)

出かけない連休の始まりに

これまで連休に遠出したことなど一度もなかったのに
珍しく三世代そろって出かける準備などしていたら
よんどころない事情が持ち上がってすべてキャンセル。

寒からず暑からず年に一度の家族的な行楽日和、
というよりどうしても稲作農作業日和気分がいまだに
抜けきらないのも足を洗った三反百姓の名残だろうか。

先の見えない景気後退に歩を合わせるように
わが家の周りから遠ざかっていく田んぼの彼方、
年月の向こうで消えかかっている古びた田植えの感触が
甦るように聴くものの身体を揺さぶる綾戸智絵の
5月発売新譜が届けばまるで岡本かの子の視覚で
触れていくような動きの文体みたいな唄声が響いてくる。

新緑を輝かせながら枯れ葉を振るい落としている椎木のように
自己記録を更新してロンドンの街をひたすら駆け抜けた
屈託のない土佐礼子（三井住友海上）の走りを見ていたら
午後から自転車で市内を抜け富山湾まで走りたくなった。

去年の連休は近所の家電量販店でPCを漁ってみたい
Linux開発者リーナス・トーバルズの翻訳書

『それが僕には楽しかったから』を読んだりしながら
5万円を切るPCにLinuxを組み込んだりしてみたら
Lanカードが認識できずじまいで終わったのだった。
(02.04.29)

情けは人のためならず

ブレーキ修繕ついでに調整してもらったサイクリング車が見事に乗り心地が良くなったからあなたのも連休前に見てもらっておいたら、チューンナップ済みの2台並んで連休三日目(4/29)の午後に街を走ればなるほど人気の少ないいたち川沿いを下りレコードショップまでの走りが20年近く乗り回したチャリコンコにしてはとても爽やか。

店内で2年ぶり筋金入りマイルスファンに出会い話も弾み聞けば買いそこなった一枚がどうしても手に入らなさそう、ぼくがクルト・ワイルのLPを探しているのを知ってか知らずかこれどう!?!とヨメがひよいと差し出したCDを手にとったらなんとオランダのクルト・ワイル作品集の新譜に出会えた。

雨になった翌日(4/30)は吉本氏の「毎日新聞」東京版連載記事の郵便が届くのを待って「隆明網」の更新作業を終えたらもう夕方、晴れている甲子園の試合開始まで昨日話題になったマイルス盤がおおまかに並べた納戸の四千枚の中にきつとあつたはずと探し始めればあれあれ自分が探していたLPに巡り合うなんてどうということ!?!

『Mack The Knife and other Berlin Theater Songs of Kurt Weill』をまだ聴いていないとこの頁(4/15付)で話したりしたけど『マック・ザ・ナイフ／セクステット・オブ・オーケストラUSA』名義で

1973年に買って聴いた国内盤の原題を失念していたというわけだが、
肝心の『マイルス・イン・ベルリン』が見つからずどうしたことか。

使い込んだサイクリング車を持ち込んだ近所の自転車屋で

こんな面白い状態で乗りこなした逸品は数十万円で売れるぜ！

だなんてすっかり調整してくれたおやじさんもよくいうよ、

その昔ミヤタの「カリフォルニアロード」とは名ばかりで

ランドナータイプしか車種を選べなかったけどよくぞ買わせ

ここまで丈夫で飽きない乗り心地を保証してくれたもんだ。

サーチエンジンで調べたら数少ない「仲間」も現役で

どこか他所で走っていきそうだったけど発売当時は

「雨が降ったら雲の切れ間まで走ればいいさ」というのが

カタログキャッチコピーだったなんて今じゃチンプンカンプン、

どこかで見えた言葉は忘れてもいつか聴いた音だけはよく覚えているようだ。

(02.05.02)

散歩やまやま

暖かかった四月に立山連峰の雪解けがひときわ進んだようで残雪が描く見事な切り紙細工のパノラマ模様が水田に浮かび、この連休に2才になるマー君にせがまれ晴れ間に繰り返したゆきあたりばつたりの散歩の眺めも捨てたもんじゃない。

130cm30kgというのが中学2年在籍時の我がサイズで剣道を始めたりしたが虚弱児&栄養不良育ちを脱却できず、やがて授かった娘も小さめで食が細いのは生命力が弱かったのか？

サービス残業がまだ慢性化してなかった1970年代後半毎夕6時前に帰り暗れていれば娘と散歩に出かけ、近所で十字路に出くわすたびジャンケンで行先を選んでいたらだんだん家から遠くなるばかりで帰りがずいぶん遅れたりかえって疲れすぎた娘の夕食が進まなかったりした。

なにがスロー・ライフへようこそなのかよく分からないけどテレビの特集番組(ニヒク総合5/1)で紹介された内外の様々な散歩模様比べ近くで見かけるのはほとんど犬の散歩かりハビリのウオーキング、万歩計で測るような散歩日和をやり過ぎすいま・ここの乗り心地。

微熱少女だった頃の娘を総合病院で診てもらった時のこと、やおら取り出した本の標準値に及ばない体型をあげつらい

特殊学級を云々し始めた医師に抗弁を重ね連れ帰った娘も人並みに成長し今じゃ二児の母にならんとしている。

誰よりもわが子の育ちぶりを見つめてきた親の判断を無視する
とんだ「標準」もあつたもんだけどこれも偽らざる現実、
人それぞれの散歩道に出会うであろう「標識」に書き込まれる
その時々正常と異常の境界のなんとあいまいなことか。

(02.05.06)

〈老い〉つ追われつ

週1午前の運動後のいくつかの昼食処の中でもお気に入りの店に入ったら柱に活けたおだまきが清楚に美しくひとしきりご婦人方の話題になったがぼくを含めて十数人の誰もその名の由来を知らず。

30〜50代の家庭の主婦十数人とのひととき三題話の一つ目はわが子そして姑に続いてなぜか旦那の話は無しでテレビをめぐっていろいろ、おそらく三つ目には夫婦のやりとりがあるはずだが表立った会話にならず仄めかすぐらいか。

なんと通学・通勤を足して40年以上も持ち歩いた定期乗車券を1度も無くしたことがなかったように不思議と家では仕事の話をしてこなかったから仕事を辞めても夫婦の会話に違和感が無くアレコレ何だかんだと日々移行して途切れない。

連休中に何冊か手にした本の中に対談本が2冊、一方は「向老期」を迎えた二人が身体で語りあい他方は「向老期」を前にした二人が言葉で語りあうともに〈老い〉つ追われ（何から？）つ抗老期？

子どもとして生まれて「ある」はお母さんと一緒に
思春期を抜け何かを「する」大人になる誰かと一緒に
やがて迎えた老いの「ある」日は介護と一緒に
まだまだ語られていないことがいっぱいあるようで、
ここでもやっぱり父は所在なさそうに居場所を探している。
(02.05.09)

ヒモの響きが好き

床屋に行かなくなつてかれこれ30年近いかな

(だからといって長髪でも禿げでもないよ、念のため)

今でも昔みたいにならじの音が流れているのだろうか？

老若男女を問わず美容師との近すぎる距離を

我慢しながらあちこち店を変えていた先々で

チヨキチヨキ耳元のハサミの音をかき消すような

程よい音量でラジオのスピーカーが鳴っていた。

ひとり稼ぎに出ているヨメに整髪もおまかせで

ヒモ？みたいにならじの静かな暮らしたからか

職場では気にもならなかったパソコンの唸りだが、

わが家では冷却ファン無しパソコンを使っていたら

ハードディスクの回転音が邪魔になつてしょうがない。

ハサミならぬパソコンを使いながら響かせているのはジャズ

CDやLP手当たり次第のようにならじの出番が多く

(ぼくにとってピアノは弦じゃなく、打楽器だけ)

とりわけ人生半ばでギターをはじめヒモの響きにハマった。

ハイドンがいまいちつまらないのは彼がビオラの使い方が下手だから

というのが山下ピアノ弾きと茂木オーボエ吹きとの対談にあつたけど、

発売されるCDどれもがビックリ綾戸におぼはんを聴けば
またも一皮むけた『My Life』とりわけ7曲目の「慕情」なんか
ルンバで誘っておいてももうビオラをこんな風に響かせるなんて
はじめてのとんでもないかくし味にキーボードを打つ手もミスタッチ。
(02.05.13)

飛び入りゴメン！

狭い庭先の光と影に具合よく庭石菖も映えて
毎朝でかけて帰るまでの間に見せていた可憐な姿に
晩春から初夏へのその日暮らして改めて気づいたが
いったいいつごろからこんなに増えたのだろうか？

引越して数年は草花はなくツツジその他の
庭木を夜中によく失敬され新たに植えたら
それも盗られたりしたので塀で囲んだり、
夜に鍵もかけない田舎風暮らしとおさらばした。

前庭もなくカーブした県道に面していた殖生の
田舎屋敷でおっかなかったのは盗っ人より車、
3才から28才までの25年間でお向さん（納屋）にも
両隣にも車が飛び入りしてもわが家の裏庭を潰し
家屋を後退させる金策が立たず道路に面して
寝起きする生活からどうやら抜け出せたのだが。

修羅の家庭なんてことがまだよく解らなかつたころ
村外れで瓦工場を営む家のおかみさんが転がり込み
泣きの涙で寝起きさせていたけこともあつたりしたけど
貧乏暮らしの祖父やお袋にどうしてあんな余裕が？

弱気で腰が引け剥き出しのエゴにしがみつくな
昨今の暮らしからはもうあんな真似はともできず、
駆け込み寺に飛び入る窮鳥を見殺して平然としている。

高屋敷に移り住んで以来あたりはいつも静かだけど

迷惑訪問以外に悪徳商法電話に勧誘メールも加わる賑やかさ、
住む先々で習い覚えた平均律のようにこころは濁ってやまない。

(02.05.16)

女と男のまたとない時

どうやら戻った体調と自転車日和に誘われ
あちこち走ったり幾つか店をひやかしついでに、
五月の風に開け放しの郊外書店に入って直ぐ
平台の一冊に泣く女のカバー写真が見え
手にした写真集の置き場所に困ってしまった。

三角関係の「うそ」と「ほんとう」の深みを
浮いたり沈んだりするしかない女として
わたしの影を写し取ったモノクロ写真も
わたしのころを書き綴った文章も
神に近づいたり獣になったりできる男と女、

もてたことなくふられてばかりは男の領分、
もててもててふってばかりは女の領分、
生涯の最高の契機がものを考える機会を与え
ますます人を好きになったり憎んだり
恋をしたり性を営んだあげく家を維持したり、

中原中也と小林秀雄の間で男を選びきれない女優
長谷川泰子が潔癖症を演ずるしかなかったように、
婚約者や三十年連れ添った妻をそれぞれ
棄てざるを得なかった二人の男の間でゆらゆら

ひたすら泣くしかなかった写真家の「わたし」は『たまもの』を産む三年を過ごす以外になかった。

三者による文殊の知恵はどこまでも「あなた」と

「わたし」の閉ざされた世界と相いれないように

性からこぼれおちる私を受け入れる千石おっちゃん、剛賢、

一冊の写真集に凝縮し拡散した三角関係映画のワンカット (170頁)

みたいな「イエスの方舟」の一枚が指し示した着地点へ、

その時第一等を感じたもの以外は投げ捨ててしまえる

どこまでも無執着でしごく普通なところの憧れが聞こえ、

読み見終わってからもあちこち部屋から部屋へ持ち歩いたら

めずらしくうちのヨメまでがイッキ読みする手応えだった。

(02.05.20)

久しぶりの運動感が嬉しい

あらら二階の窓から眺めていた大きな樹が切り倒され
真向かいに昨秋から造成された1区画の基礎工事が始まり
いつ見ても飽きない野鳥がすっかり影を潜めてしまった。

週の初め仕事社会が動き始めた時刻に電話のベル
懲りない金儲け勧誘電話の類いじゃなくて

来月のバドミントン大会へのお誘いで良かったが

この頃はスポ少の子供たちやママさん相手だけ

とても試合どころじゃないが怪我しないよう練習あるのみ。

やおら半年ぶりにお隣の校下の練習日(5/21)に出かけ
相変わらず三十代から五十代のメンバーに混じれば
ひねもすパソコン疲れからの脱力感がたまらない。

見上げたり見下ろしたり感覚も忙しい若さからも遠のき

まあまあ額面通りの動きにおさまる冷ややかさが手放せず
運動の後も強烈な酒やこつてりした料理はもうゴメンかな、

シャワーを浴びヴァン・モリソンやビョークのような

どこか小泉八雲に通じる芯を感じさせる唄ものを肴に

グラスを揺らしていたら WOWOW JAZZ LIVE が始まった。

20才ぐらい若手のジャズマンと見事なアコースティック
トリオ演奏をやつてのけるチック・コリアのピアノは
スポーツに見られるような年の差なんかまったく感じさせず、
イタリアそしてフランスから頭角を現したピアノ・トリオ
アントニオ・ファラオやジャン・ミッシェル・ピルク等の
若手の演奏にいささか飽きていた耳に安心して響く心地よさ。
(02.05.23)

人生の目鼻立ち

窓を開ければ風がすべすべして気持ちのいい今日この頃
高さが1mしか違わない毛勝(2,414m)と釜谷(2,415m)の
峰に挟まれた山肌で日に日に薄らぐ残雪の模様を
ズームを利かせたデジカメで再現して眺めたら
まるでコマ撮りしたロールシャッハ・テストもどきで面白い。

昨夏の退職した夕方に訪ねてくれたのにすれ違いで
会えなかったKさんからの花束&ワインをはじめ
グラスが乾き花は枯れても様々な想いで写したデジカメ画像が
過ぎ越した日々を彩るデジタル・アルバムで甦る。

集っているのか小学校のは知らないが中学校のは一度だけ
高校のにも出てないし今はない夜間短大の同窓の催しにも
顔を出したことがない「同窓会出不精」の見本みたいけど
職種縁による国公私立大図書館職員の筑波長期研修後の
年一回の同窓会だけは何故かほとんど欠かしたことがない。

まるで市民参加型の出来レースマラソン大会みたい
生涯の稼ぎが計算できてしまうような勤めを黙々と終え
やがて足腰立てずくたばる満期退職者像をなめたらあかん、
そんな生活はバカバカしいだなんてそれこそ真つ赤な嘘だった。

もしそんなふうには暮らせたならそれこそ価値ある一生！

39キロ地点で脱落せざるを得なかった自分もそうだけど

だれしも学校を出て就職して働きそのうち結婚して

簡単に定年退職できるほど世の中は甘くないというか

そんなふうにおあつらえ向きに生きられないからこそ

大なり小なりそんな価値ある生き方からの逸脱を避けられない。

大学図書館の現役と満期卒業者が入り交じった二十回目集い

昨夏の立山での長研同窓会のスナップからピックアップし

忘れたところに書き込まれる同窓会のメーリングリストの要望で

当サイトの「十字路からの眺め」に掲げた裏地の感想として。

(02.05.30)

ズッコケ笑っぱなしのゲーム展開

いくらテレビ観戦だといっても午後から夜にかけてサッカーの三本立てなんかやったりした翌日は外出、といいながらまたサッカー三昧をやってしまった。といつても売れ残った入場券を入手してスタジアムへじゃなくサイクリングの出がけに映画館で金を払いネットの前評判に誘われた一本「少林サッカー」にぶっ飛んだ。

非武装中立国のコスタリカ戦は完敗だけどころからのサッカーは中国の完勝もんだね！

この映画を観たサッカー少年&少女たちがゴールキーパー志願に全員転向してもしようがないくらい文句なしのハチャメチャ振りそれでいてサッカーはフォワードとキーパーでやるもんだという誰にも分かるツボを押しえてどこどこまでもどこまでも走って飛んで。

前半から後半へ何もかも壊しに壊してサッカーボールだけが壊れない！

あつという間に見終わって明るくなっても壊れに壊れまくった

笑いでウエイブする観客が皆無だったというのがここんとこ

まとめて読んでハマッているしりあがり寿漫画風にいえば

子どもを作らないセックスみたいな鍛え方をした筋肉が

生死をかけた武道で鍛え上げた筋肉に勝てるわけがないのだ。

MLBでも引退した大リーガーの内部告発によれば筋肉増強剤など

ドーピングが野放しみたいけどいろんなスポーツの先端における病の日常化がすべてを笑い飛ばすパワー全開のサッカー映画をもたらしたともいえるだろう。

たまたま一緒に見終わった子連れ之母が大切な記念みたいに

パンフレットとサッカーグッズを買い与えている姿に

「少林サッカー」が日韓共催サッカー・ワールドカップに負けない

サポーターを得たとオレはいつておきたいんだけどどうだろう、

サッカーの本場である南米やヨーロッパでの興業成績が見物だね。

「少林イレブンに負けない戦術はあるだろうか」などと

どうしようもなく迷走した自転車で自宅近くのお店に辿り着き

咽喉を潤したりしながら夫婦共々思い出し笑いが止まらなかったよ。

日本プロ野球も試合を休んだ火曜日（6/4）に娘夫婦もハイビジョン画面で

W杯開催国イレブンの戦い振りを一緒に見とどけようとわが家を訪ねたのに

ちよつとした都合で日本対ベルギー戦の前半と韓国対ポーランド戦の後半しか

観なかつたけどどことなく不安定な日本の守備陣形そして2点目を入れた後も

しつかり押している韓国の攻撃陣形がもたらすハラハラ感こそサッカー初戦の味！

凄かつたのはドイツ対アイルランド戦（6/5）というかアイルランドの執念の同点ゴール！

ゴールキーパーが体に当てたんだけど跳ね返ってポストの内側に当たって入ったみたい、

それも3分のロスタイムも2分過ぎてからの同点なんだからワールドカップは怖いなあ。

(02.06.06)

梅雨入り時の散歩のリズムは

後ろ隣のアジサイが今年も見事ネというヨメの感嘆に

紫陽花は雨降りだともっと艶やかなのにと応えたりしてたら、

高屋敷もいつきに梅雨入り（6／11）してしまいい夜になっても蒸し暑く傘をひろげ出かけた体育館で練習を楽しむ前に集中力も途切れがちだった。

職場で当番のない昼休みに体育館に通いラケットを振ってたら

年甲斐もなく馬鹿のひとつ覚えだねとよくからかわれたりしたけど、

中高年になってはじめて知る身体の日覚えなんて言い草はそこそこ生きてそこまで実際にやった人にしか分からない類いのひとつだろう。

出されるゴミの中味とやらんで家付きの庭の感じも住人を表していて

それも歩きなが覗いた速さと自転車でサッと通り過ぎたのでは、

撫で方も触れ具合も違うようだけど暮らしぶりが庭いじりにも滲んで家庭菜園なども含めれば犬猫に負けない植物との交情が伺われる。

見るからに門扉や塀や車庫などやたら立派なのに庭の草木が

妙に窮屈そうに根づいているようで花付きもしつくりしないのは

どうしてなんてそれこそ家の営みで描いたシヨートフィルムみたいでそこに住む人と付き合いたくはないがおのずから漂う佇まいが気になる。

なかなか点が入らず退屈きわまりないサッカーや「ジャズを踏み外したような

悪声」の綾戸おぼはんのボーカルのどこがいいという声があるのもごもつとも、

それぞれ自分の背中に見合うものしか背負えないから本など読まず知識などなくたって
いっこうに生きていくのに差し支えないからほとんどどうだっていいこと
それよりなにより見たり聞いたりしてもしなくてもなんにもないという
ことそのものありかたにただただ驚いてばかりもいられない。

流れの中で出会う偶然に取り憑く術を持ち合わせないかぎり

漂う器はいつまでたっても空っぽのまま沈むこともないけど

取り逃がしたり取り込み過ぎたりしたらしたで世渡りが難しく迷いに迷った

雨の散歩から帰って『なるほどの対話』 ぐらいじや濡れたところも乾きにくく、

先週の木曜だったか「はなまるカフェ」でヒグチカナコという女が

住まいの近くでも出かける距離と場所によってそれぞれお化粧が

していく本人にしか分からないように違うんですと語ってたけど

なんだか庭の草花が着物を着て出かけるコトバを聞いたみたいだった。

(02.06.13)

ちよつとした手習いのきつかけ

なんだか梅雨寒な一日はジャズギターを聴きながらデジカメ写真を整理して取捨した常願寺川遊歩道で撮った画像を「十字路からの眺め」に組み込めるよう編集作業をしてもなんか大事なことを忘れたようでしょうがなかったけどここんどこ日曜（6/23）はバドミントン大会への参加があつたり夜は二本立てで映画を観たりして電子楽器（ギター）を触り忘れていた。

ギターといえど一九六〇年代も半ば辞めようか続けようか迷っていた二つ目の職場の大学の図書館や学部の同年輩に誘われうしろで刻んだリズムも定まらずほどなくバンドが解散となりやがてメンバーも学外へ転職したり交通事故や病気で亡くなつたりで独り取り残され手元に残つたリズムギターは弾くことも棄てることもなかったのだ。

この期に及んで気まぐれみたいに電子楽器（ギター）を注文したらなんか妙に手に染まつてきて忘れていたコードやリズムがもどかしく難しく、そのうちラケットを振り回したり自転車を漕いだりできなくなつても両手の指だけは動くようにしておいて愉しめるようになっていたね。

結婚する前だったけどはじめてのボーナスをはたいてヒッコリーだったか合板のスキーを買って3シーズンほど通いつめたけど駄目なもの駄目、上達の楽しさが分からず運よく現れた買い手に処分するしかなかったのに四十過ぎから妻子の伴走みたいに滑り直してみたら止まらなくなつてしまった。

バドミントンにしたって痔疾や腰痛のリハビリに迫られたりしなかったら
とても三十代半ばからシャトルコックを追いかけたりすることもなかったはずだが、
ちよつとした行き違いや躓きがあつてその後にも予想もできず思いもしない
展開を生きることになる十代から二十代のこととなるとふり返りたくもない。

所帯事以外はなんだか歳不相応な手習い事始めの最たるものはパソコンかな

今だから中年コンピュータ音痴に業務のシステム化を押し付けた図書課長にお礼が言えたり、
家財は少なくゴミはためず甚だししがらみも薄く今日がサイコーで十分だから
数回の引越しを経て取っときだったヒビの入ったギターもようやく棄てられそう。

(02.06.25)

六月の終わりに

六月も終わりということでW杯サッカー月間もクライマックスだけどリアルタイムでテレビ観戦してきた出場各国代表イレブンの歴戦の跡がなんだか2ラウンド制のボクシングのように回想されたりするのも今週初めにテレビで凄いWBC世界フェザー級タイトルマッチを観たからかな。

ラスベガス、MGMグラウンドガーデンの現地時間で6月22日に行われたエリック・モラレス対マルコ・アントニオ・バレラの試合を観た後はどうやって気持ちを静めればいいのかなかなか寝つかれなかったがめったにないけど素晴らしいコンサートの後にもそんなことがあったようだ。

オーディオ装置から音が出なくなったりモニターテレビが映らなかったりこれまでちょっととした不具合でいやな思いをしてきたが数日前にはじめてインターネットが使えるなくなってもパソコンがつまらなくなりNTTやプロバイダーに電話しまくって障害を切り分け試してもTAが復旧しない。

仕事じゃあるまいしネットワークなんか使えなくなっただけでどうってことないなんてヨメには口で言いながら手の方はモデム接続の応急処置を施したけどこれじゃLANにつないだヨメのマシンがただの箱に成り下がったようですよっぱりこの際思いきってブロードバンド環境でつなぎ直す潮時としよう。

洗濯物が気持ち良く乾いてゆくような梅雨の晴れ間の今日は待ちに待った富山で3度目になる綾戸智絵ライブがぼくの誕生日の最高のプレゼントになりそう、

私事がこぼれそうなところで読んだ車谷長吉「贗世捨人」(『新潮』7月号)の「私」が「女の存在理由は、一つしかない。男に押し倒されて、股を開くことである。ほかに何があるろう。男に酒の酌をしてやれば、男が喜ぶぐらいのことだろう。」と書ききっていたのが男の季節の半夏生を締めくくったように響いたところで今年も後半へ。(02.06.28)

おしまいの夜はマティニで

今朝（7/1）の新聞スポーツ欄はブラジル相手に決勝戦で負けゴールポストに背と頭をあずけた姿勢のドイツのGKオリバー・カーンの写真が印象深く、大運動会の後みたいW杯サッカーとともに6月には忘れがたいことが、

そんな歳でもないのに時には心身の制御がおかしくなるというか

午前は何ともなかったのに出かけるのは止したほうがいいかなみたいなの

体調になったところへ知人が車で迎えにきてくれるはヨメからは

残業になったから夕食は抜きで開演前に待ちあわせたいなどと言ってきたり

そんなこんなで富山県民会館での綾戸智絵ライブ（6/28）に出かけてしまった。

うっかり足元がふらついたりひっくりかえらないよう気をしつかり

会場を埋め尽くした拍手とともに綾戸智絵がぼくの誕生日（6/28）を祝って

唄ってくれるなんてサイコー！とばかりに勝手な思い込みに耽っていたら

綾戸節ともいべき話芸で綴る「人間の証明」から「スロウダンサー」まで

ピアノソロそしてデュオやトリオで唄う2時間がまたとない治癒になったみたい。

ネットの噂では綾戸ファンには医療関係者が多いらしいということだけど

横浜国際総合競技場を圧倒したブラジルとドイツのサポーターの数の違いみたいに

県民会館の綾戸ライブ会場が年齢幅も広く女でいっぱい男は数えるくらいで

こんなところにも口コミで広がった綾戸ミュージックの隠された魅力が窺えそう。

おかげさまで不調も治まり車で送るといふ知人の好意を辞し

仕事を辞めてからもそこだけは足を運んでいたお店のドアを押したら

なんと今夜で閉店ということであゝいい時に立ち寄れたとヨメと首肯くしかなく

客足が引きも切らず長居は無用とマティニ一杯ずつでおいとましてきた。

図書館員稼業の後ろ1／3をオリジナルを含めいろんなカクテルで

憩うことができたのも喜寿近くまで客のもてなしに心こめた女店主のおかげ

などと言いながらその名前も知らず店主の入院以来独り店を切り回してきた

これまた心優しい店主の姪ごさんに教えてもらい二人の胸にすっかり刻んで帰ってきた。

(02.07.01)

通り過ぎれば無駄話

サンポ、サンポと小さな手をめいっばい広げて駆け寄ってきたりするから梅雨の晴れ間にマー君と散歩をすれば茄子畑が一雨ごとに見事に花開いているけど親の意見といっしょで一つも無駄がないなんてありや嘘というか作り話毎朝見回って無駄な花付きを見つけしだい摘み取っているに違いない。

女子学生をもつお母さんから娘が司書の資格を取って図書館で働きたがっているなどと話しかけられりしたもんだから現役の頃の我が身の振り方というか図書館勤めも第四コーナーを曲がった向こうに定年が見え隠れしはじめて考えた起業プラン・シルバー・コンサルティングのことを思いだしてしまった。

専門性の薄い司書といえども現場で満期卒業すれば物事の分類・索引のやり方やちよつとした調べものの仕方や参考文献の作成など身体を使わずとも手と頭でお役に立てることもあるだろうからその人それぞれの現場を勤めあげた定年退職者が退職金の一部と知恵を持ち寄り立ち上げた会社を舞台にそれぞれが培ってきたアイデアを売る。

なんてのが骨子だったけど身体の不都合やら何やらで起案者がリタイアの憂き目に今年の春先に久しぶりにお昼をご一緒した現場で頑張っている熟練図書館員から辞めるの早すぎたんじやないなどと言われたけど当時の状態で居座り続けたら間違いない今の自分ではない病者か廃者の姿を曝しいろんな迷惑をばらまくことに……。

散歩から帰って汗びっしょりの2歳児とシャワーや風呂を使えばじいちゃんもイッショイッショなどとほざいてコチトラの珍ポコを握々してくすぐりたいのも

今のうちだけ気がつけば女を孕ましたり様々な男を演じて親元を離れていく
まだ見ぬ花の咲き具合を邪魔するようなことだけは茄子（無し）にしておきたい。

4月16日付け「産経新聞」に船橋市西図書館で問題となった蔵書廃棄リストが載り
ずさんというかお粗末さを臭わせる司書の廃棄作業例として報道されていたようにだけど
先行き不透明な現在を照り返すみたい設置母体が違っていても金脈と人脈が薄く
行政的手腕も持ちあわせず何より人材が乏しい図書館界で働こうとする若い人もいるんだね。
(02.07.04)

夏が来れば

7月の初めに梅雨のタガが外れたような集中豪雨があつて高屋敷界限はカエルの合唱やホテルを見聞することもなく造成地に雨後のキノコみたいにポコポコ住宅が新築されていたり今日も窓の外ではクレーン車が夏空を突き上げゆったり弧を描き暑さにめげずひよいひよいしなやかに動くたび職の姿が眩しい。

一汗かいた後など冷たい麵がご馳走だけど夏をめぐるたびに

たしか角張つてソウメンと一線を画していたヒヤムギの食感は何処へ？

今となつてはソウメンとヒヤムギの違いも分からないくらい

夏の風物も姿形を変えているようだけど夏休みのとつておきの感触、

たとえば早朝に訪れた裏山で繁殖したカブトムシが出てくる樹は枯れそうもないし

宿題の追い込みとともにやがてまた集団で何かをやらされるといふか

とにかく学校的なものへの嫌悪感から今だに抜けきれないでいるみたい。

学校を抜けたときや仕事を辞めたときなど生きてきてこんな遊びがあるなんて

思いもよらなかつたといふかまさにこれぞ人生の夏って感じだったね、

だから学期も会計年度も秋に始まり夏に終わるのであればいいというか

人生の節目節目の遊び方というか振幅も倍加するに違いないだろうな。

いずれも夏の出来事だけど古いところでは富山の空襲（1945年）の夜景が

そして十年一昔だけどソ連の解体（1991年）がまるで私的事件簿に書き込まれているようで

めぐり来る夏を超えて何かを考えたりする地図の座標というか限界みたいけど
アガリの来ない双六みたいな夏の地勢図を思いつ切りサイクリングで駆け抜けてみたい。
(02.07.08)

どのように〈若さ〉から遠ざかるか

昨日(7/10)は朝から台風6号による雨もひどいしBS放送で中継しているメジャーリーグ・オールスター戦も面白そうで出かけたくないのを振り切りいつもの体育館に着いてみれば大も小もアリーナは利用者が賑わっていて家庭婦人に交じって汗をかいている数少ない同類や高齢者に目が留まったりする。

若気の至りなんてのも人それぞれの自然性の発露というか流れに乗るだけとにかく有り余る生命力の発現だからなりゆきまかせでいいんだろうけど

高齢化社会では出世や贅沢といった一時の自然過程の往路が〈死〉への帰路をあぶりだすからどこかで普段の仕事と暮らし向きからはみ出すような動きや運動もやっておくべきかな。

日本の現状では〈老い〉の渦中にあるお袋みたいな高齢者には十分な老齢年金が第2子を孕んだ娘みたいなすべての妊婦には十分な給料と育児休暇があるわけないからさしあたって孫の子守をしながら体育館に通う婆さんみたいに老齢化に対する反自然を生きるというかほつといてもはまる〈老い〉の軌道に逆らう姿勢が目立つのかな。

週1回だった運動を夏場に入って週3、4回に増やしてみたら疲れ以上に自転車やスキーでの転倒に因る左膝や右肩の怪我のリハビリになったみたいで痛みもなくフットワークやラリーをこなせるまでに回復できたから言えるんだけど整体や病院に通ったりするより適度な運動の持続がいい場合もあるってことだね。

加齢の極みは快食・快眠・快便を維持できるだけの生命力をどうやって保持するか
なるったけ他に頼らないよう経済力を含めた〈若さ〉への反発力をバネとするだけ
万人にとって〈老い〉は我が事だけど〈死〉だけは余所事つてのが僕の老人問題かな。
(02.07.11)

転石から納涼幻覚まで

梅雨明け前に次々と都市を襲う台風がやって来て渦巻く雲間からむつくりのぞく高山はまるでビルの最上階で目覚めたような幻覚。

近所では台風一過の夏空に大工さんの金槌の音が吸いこまれ

どこか遠く空飛ぶ爆音が聞こえたりすると川釣り三昧の幼年の夏や

思春く青春期を彩った夏山歩きの女や畑仕事や水やりの手伝いだったり

夏の小遣い稼ぎの古綿打ち直しアルバイトなど夏のいろんな匂いがする。

残雪が糸屑みたいに霞む立山連峰が何処からでも望める富山市内を

いずれの方向へか自転車で走りだせば小一時間もかからないうちに

東は常願寺川に西は神通川を渡って呉羽丘陵にぶつかるし

南へ市外を登れば立山山麓で北はすすい富山湾で行き止まる。

市役所の展望台は富山市民の生活視線が錯綜する眺めを提供するけど

リメイクされたE・Tみたいに高度化した産業社会の獲得視線で見下ろせば

海岸線を基底に二本の河川で仕切られ雲海に届くビルが立ち上がっていて

高層化した各エリアをつなぐエレベーターみたいに自転車で走り回る。

この世で胎・乳児期の母との出会いこそかけがえのない春のはじまりだが

それぞれ思春期前期の夏の扉の開かれ具合で赤い糸の結び目に狂おしく

縄文期から現在までの暮らしぶりを自在に昇り降りイメージする衛星の眼から

河川敷に吊られた蚊帳のように立ち上がった高層ビルに畳み込まれる博物誌まで。

急速な情報化による異次元の出会いが援助交際へのアクセスだったり
もしかしてセクハラでしか異性とかかわれないようなことになったり
正常と異常の変り身が激しくて境界値を割り出すこともままならぬくらい
下世話が噴出している倫理の秋が目立つ幻想の床が描く存在の間取りを夢見る。
(02.07.15)

オー！…待つ…違い

在職中の昼飯はほとんどが愛妻弁当だったせいでもないだろうけど、いまだに行列をなして待つて食るといふことに馴染めないんだなく、自分には待つて食べるほどのものが無いなんてしたり顔には縁が無いし、欠食児童の成れの果てじゃないけど空腹を満たす手順としてどこかおかしい。

最初に体験したインターネットは図書館業務のネットワークサービス導入がらみ、勤務先でキャンパスLAN経由のいわゆる専用線接続の速さが初体験だったわけ、まあ自宅では以前からパソコン通信の遅さに慣らされていてニフティからプロバイダのダイヤルアップIP接続に乗り換えたときはそれなりに満足だったね。

ところが情報へのアクセスなんて頭の餌にもなんないけどいつの間にかWWWWによる画像や音声表示で待たされるのが嫌になったみたいでフレッツISDNも1年チョットでおさらばしてこのたびブロードバンドにつなげてみたんだけど、三輪車から自転車に乗り換えたようでも情報の高速道路とはいえないよ。

でも朝の7時から使えるとプロバイダが連絡してきたADSL回線接続開始日は早く目覚めたり時節がら雷によるルーター型ADSLモデム障害も気になったりで朝飯前に接続動作確認だけは済ませた午前の一ときをブロードバンドでショートフィルムやアニメなどこれまで敬遠していたサイト巡りに費やした。

確かに表示待ち時間は薄らいだようだけどサクサク快適この上なしでもなくて測定サイトで当方の回線使用環境を設定し測定結果を見たら1.5Mbps未満で

フレッツADSL 8Mbpsとしては少し遅いんじゃないとプロバイダのサポートにメールで問い合わせたりしたけどNTT収容局から2キロ以上ではこんなもんか？

それでもフレッツISDN接続時に58分かかっていた「アクセスポイント案内」の800ポイント以上はある自動リンクチェック作業が36分に短縮されたみたいだし夏季キャンペーンで3ヶ月分の接続料は無料サービスということでもあり常時接続でふたたびヨメのPCも同時にネットサーフィンできるようになってホントよかったよ。

インターネットはユーザーが自ら出向いて探さないと情報を得られないわけで求めるものを入手しようとする意志の持続を許容する範囲内では待てるけど学食や社食や出張先やレジャーでも三度の食事習慣みたいに慣らされている空腹を満たそうとする自然な意志の持続が待たされる。でいったん遮断されるということと頭の情報ネタといい胃袋の餌といいそれぞれ待つに違いないかな？！

仕事に出ていようが家で昼寝していようを感じる。速さはきつと現在の境界にあつてとりわけ通信なんかの速さは暮らしを取り囲む産業と消費の多様な速さそのものようであつた。われわれの気づきの速さだけが待つという形の不安にさらされているといたいな。

(02.07.18)

食から耳に抜けた夏の定番

蝉の音がすっかり夏休みモードに入ったみたいだけど

高屋敷の上空は梅雨明けから取り残されたような空模様、

これで夏全開だったら土用のウナギももつといけたのに

といつても養殖モノばかりで野生の白焼きは二度と食していないな。

季節の食い物にもいろいろあるけどどれも食材そのもので勝負！

という単純明快さが味わいの原点に立ち返らせてくれるようで

鮎の塩焼き一つでも神通川か庄川か宮川か獲れた川が味の違い、

そんなスローフードを昔は自前で今は近所のお店で味わってきた。

田舎に住んでたころは米も野菜も地産地消そのまんまだったから

やがて富山市郊外に移り住んだ時は「農」と「食」の距離感が

圧倒的になってきて美味いとか不味いとかが自然な感じじゃなく

今じゃ死語となったエンゲル係数の枠内での味覚に加工されたみたいだった。

食料自給率40パーセントの日本でBSE（牛海綿状脳症、いわゆる狂牛病）に続き

ことさらに食品の偽装表示や無許可添加物に品質保持期限切れという商慣行叩きの

矛先がこのごろ輸入健康食品による相次ぐ健康被害に向かっているのも

「食生活の不安」そのものが健康で自然な夏から遠ざかってしまい

いつの間にか「不安な食生活」という病みたいな^まつけ^をを支払わされている。

ゆきあたりばったりいい加減なやり方で台所から賄ってくれているヨメが
日本の夏の耳の定番は「サザン」か「チューブ」でしようと言うもんで
見つけてきたばかりのCD「アーネスト・ラングリン／ガツチャ！」を聴かせれば
これぞ納涼決定盤格付けでわが家の新しい夏のBGMが誕生してしまった。
(02.7.22)

言葉も海図も独りの瓶の中に

毎度のことだけど梅雨の蓋が開いて日常が熱く浮いてきたようだ
いつだって燃えるような恋の季節は暑さではなく熱さが似合うのだが
人生の季節の時々の様変わりを生りきるような航海もあるんだね。

サントリー・ミュージアムになにげなく飾ってあつた初代マーメイド号の
小ささが新鮮で23歳の時は「快拳」か「暴拳」かで大騒ぎになつていただけ
63歳の「太平洋ひとりぼっち」はワールドカップ・サッカーでかき消され
堀江さんのヨットから更新される航海記録がインターネットで細々と届き、

6月26日 JST10時

北緯 42度08分

西経 156度21分

天気.. くもり 西の風 風力 2

(サンフランシスコまでの海図が
二枚に成りました)

6月28日 JST10時

北緯 42度20分

西経 152度16分

天気.. くもり 北西の風 風力 3

(村上のぶえさんの著書

元気の出てくる言葉たちを読んでいます)

テレビに張り付く様なサッカー観戦の一方で追っかけた「ひとりぼっち」の海図から「衆院政倫審」の田中眞紀子議員を取り巻くやりとりの実況中継や報道の垂れ流しまで40年前に比べて海の汚れが甚だしかったと上陸後の堀江さんは記者に語ったがどうしようもなく虚職な奴らに汚染された暮らしの海原に大不況の風が吹き荒れ中高年の生活苦自殺が毎年最悪を更新しているのに戦後のボケ症状が深まるばかり。

1962年の高度経済成長まった中だった夏に94日間を費やし

底知れぬ不況が渦巻いているこの夏に67日間を費やした

堀江さん2度目のヨットによる太平洋単独横断は40年の歳月をも超え

たった独りのこころの傾きでかきわけるように追いかける風が吹いている。

(02.07.25)

暑く高くトンボがえり

乗り物はたばこを吸わなくなつてから禁煙車両がほとんど

といつても今回みたいに旅行日直前に切符を買つたりすると

禁煙車両の座席が先に売れてしまつてるからへビースモーカーに挟まれたりして煙草トンネルを乗り継いだようなJRの道行き。

暑い夏こそ高原の温泉でもないけどたまたま訪れた日が

日頃クーラー要らずの避暑地がこの夏最高の暑さだった

なんて洒落にもなんないけどお湯も湯あたりしそうに

熱くてたまないからどこか露天風呂へ逃げ出したくなつてしまう。

白根火山と浅間を結ぶハイウエーも暑さでへたつていたようだけど

同窓会の宿だったペンションのご主人の楽しそうな仕事ぶり、

いらっしやいと声をかけられたファーストコンタクトでたちまち

和んでしまったのも過疎地リゾートの元気印の味わいならでは。

幼いころから唄や教科書で知つてた景観に出会つたみたいだが

数珠つなぎの観光客の数より白根山頂の湯釜を浮遊するトンボ、

火口湖の感触を伝えるみたいに帽子やサングラスにまとわりついたり

孵化した軽飛行機のようにスナップ写真に写り込んでしまつていた。

例年の志賀高原スキーで半年前に山頂から滑り降りたばかりの

横手山がすぐそこに見えたのにJRで辿つた夏の草津は遠く暑くて、

21回目の図書館職員研修同期生の同窓会も上の空だったみたいだが
バスツアーで高原のトンボのように眺めたシロウツギやヤナギランが色鮮やか。
(02.07.30)

二人の八月に入る

ばつさり散髪といつても頭じゃなく庭木を剪定してもらったから狭いながらも見た目もすつきり風通しも良くなったように百歳を越える松なんか若返ったようにだけどほとんどの庭木が自分より年上だというのに茂り過ぎててチョット気になった。

山歩きをしていた頃は四、五日間の夏山から下山した後なんか体が軽く飯も美味くなったように夏バテに縁がなかったけど腰痛持ちの今じゃ庭作業もおぼつかなくて腰に負担の少ない夜間のバドミントンや昼の自転車ぐらいが夏の汗かきだね。

月末の「隆明網（リュウメイ・ウェブ）」更新作業の合間に自転車を転がせば探していたウイリー・ジョーンズ三世の今どき本格的にスイングしているCDが見つかって暑さも忘れ先月限りで定年退職したヨメとも三十数年越しにどうやら完全同居。

手紙をいっぱいやりとりしたり会う都合に手間ひまかかるしいつそのこと一緒になってみてもなんと共稼ぎの長かったこと若さをすっかり通り過ぎてやっとな好きな漱石の『門』に描かれた宗助と御米の時間に手が届くことはないだろうけど近づいた気分だ。

近くのショッピングモール内の取扱店から連絡があったAVディスク「ランディ・ニューマン／小さな犯罪者」を引き取りに二人して出かけ

ついでに自転車の向きを変えたお気に入り伊太飯屋さんでランチタイム、
冷やした前菜の朝獲れキジエビに熱いカラスミの Pasta にぴったり白ワインが涼しい。
(02.08.02)

この夏のエロスは

「三度の飯より」とか「寝食を忘れて」なんて縁遠い今日この頃
キャベツの名産地で4食続いたキャベツを残さず食べてしまったけど
どんな対象であれ食わず嫌いを脱皮できるなんて滅多に無いから
自分を含めて一所に立ち止まらない人様の物事との関わり具合の
様変わりの様子などを見聞できたりすると無償の歓びを味わえるね。

こう暑いと涼しい部屋にこもって音楽や映画や読書など

手軽な2次体験による暇つぶしで時を過ごしがちになってきて

時には様々な現場の暑苦しい人間関係を離れば食も進むし

長岡の大花火だってインターネット中継で音も色も愉しめたよ。

インターネット・リソースを利用した図書館のレファレンスで

多々ある日記や生活記録やHめいたサイトなんかゴミ扱いしていたけど

毎日がサンデーとなった気ままな今になってみて見聞したりすると

新聞の家庭欄じゃ拾えないような手応えにぶつかったりする。

ヤケドしたことの無い人生はつまんないけどそれなりに固まっちゃまえば

なおさらどうしようもないから変わり映えのしない風鈴の窓際や

ひたすら蝉の声しかしない田舎の釣り場から逃げ出したくなったり

素敵で奇麗だなと思わせられた相手もたかだか離れ業に過ぎなかったり。

犬も食わない理念が勝った嫌らしさもなく毛ほどの娑婆つ気もない
出会えただけで嬉しくなるようなつげ義春マンガはポルノチックだったが
本屋から出戻ったミュージシャン早川義夫のとにかく聞かせる筆使いを見つ
晶文社のサイトでの連載を追っかけるうちにこのほど増量編集本で読み直し
素直さなんかを売り物にしないエッセイから滲み出るエロスもこの夏に似合っていた。
(02.08.05)

彼女が辞めた風景

今年の夏は地元中学出身の甲子園球児を激励する横断幕が人通りもまばらな近くの道路で2枚も揺れたりしていて高校野球に興味も湧くけど、賭け金を張ったりしていた。職場の夏、みたいに熱くはなれないね。

賭けゴルフは縁がなかったけど賭けマージャンは職場の外まで、酒も煙草（今じゃ吸い飽きた）も未成年から嗜んであたりまえ。職場の温泉慰安旅行じゃ童貞の筆下ろしの手配も幹事の仕事だった。

金品の付け届けだって必要に応じて世の人並みに為ざるを得ない必要悪からだれしも免れないからとにかく暗黙の了解を逸脱しない範囲内というのが政治の舞台では有効じゃなくなったのだろうか。

裏金の動きのないところに政治的な集団行為が成り立たないことは国民一般が積み重ねてきた生活習慣がはつきり語り下ろしているのにマスメディア業界人だけは雲か霞を食っていないと出来ないような利権にからむ賄賂や公設秘書給与、流用疑惑報道を繰り返すばかり。

外務大臣として、政界の内幕の手前まで肉薄して僕なんかの蒙を啓かせどこまでも戦後的、精神年齢を疑いたくなるような泥仕合しか演出できない政財界とマスコミの癒着した構造に目を向け暗々裡に突っ張って見せてくれた。

そこそこ冴を見せていた辻元清美議員が辞職に追い込まれたのとは違った道を見いだせるほど田中眞紀子議員にとっても政界は甘くなく、日本の政治家なら大なり小なり「お前だってそうじゃないか」程度の常識的な行為が議員辞職に結びついてしまう幕引き劇がなんとも興ざめ。

しがない不良中年風情がぼやいたところでどうしようもないから近所の馴染みの暖簾をくぐって暑気払いを愉しめば二人のグラスが出色の白ワインとの出会いで満たされトリフのソースで食べる初物の秋刀魚の松茸添えとの相性もピッタリですっかりご機嫌に！

幾つになっても新鮮な食の出会いが展開するみたいにこの夏は耳にする日本人バンド・ミュージシャンの新譜が素晴らしくて町内の納涼祭や富山祭りに出かけなくとも先月の「エゴ・ラッピン」に引き続き今月の「クレイジー・ケン・バンド」でわが家の夏もいささか乗りがいいかも。

(02.08.12)

腰痛も忘れる平和なお盆

いい加減クーラー暮らしにも飽き飽きでもないけど
お盆休みで閑散とした午前の県総合体育館でほのぼの
バドミントンを楽しんでいたらチョット腰痛気味になったが
そのまま予定通り午後はお袋を家に残して墓参りに出かけた。

チャイルドシートとお腹にも子連れで墓参りドライバーを
やつてくれた娘の車の助手席でぼくは腰痛も紛れたけど
往きの途中で忙しく動くワイパーが役立たないような

県西部での局地的集中豪雨に見舞われたときは正直言つて
こりゃ小高い山の上にある墓への往復は決死の覚悟が要るかも、
だったけど着いてみればカラカラに乾いておまけにどこかの
誰かが落葉一つないくらいきれいに掃除してくれたみたい。

お墓だけ残して県東部へ引越して30年になるのに
わが家のことを気にかけてくれているところに出会えて
目を閉じ四方八方深く広く無言で手を合わせるばかり、
一度も国政選挙に出かけた事がないようなものぐさだけど
これまで杖をつくような足の怪我や腰痛にもめげず
なぜか墓参りだけは欠かしてこなかったのはなぜだろう。

10キロの幼児を抱えたわずかな昇り降りだったのに
腰痛を持ち越した翌日に老後を楽しむ姉夫婦が訪れ

子育て真っ最中の姪夫婦も交えたわが家での団欒に
主役がすっかり娘や孫の世代に代わってしまっている
戦後57回目の8月15日を元気に過ごさせて言うことなし。
(02.08.16)

この夏の穴場は？

チョット早く目覚めた朝などついつい大リーグ中継でのんびりヤンキース対マリナーズ戦を楽しんでいたらかつて広島カープのユニフォームを着たことのある

ヤンキースのソリアーノ2塁手が見事な30号ホームランを打ってなんと、サーティ・サーティの仲間入りを実現したよ！

さすがのマリナーズのイチローも先を越されちゃったけど

「どこまで進化するか分からない」とトリー監督の評価も手放し

遠くから見ている日本の野球ファンにとつてソリアーノ選手の活躍はお盆休みの多摩川に現れたアザラシの「タマちゃん」みたいだ。

多摩川べりで通常より高値でアイスクャンデーを売りまくった

おじさんパワーも俊足、長打力のあるアベレージヒッター級で間違いなく商魂は30盗塁プラス30ホームランの総合力だね。

時としてテレビが見せる夏休みの自由研究みたいな面白さの

向こうへ出かけるとしたら不祥事続きのUSJが空いてていいだろうけど子連れで出向くには孫が幼すぎて無駄足もいところ、

三才前の子供の好奇心なんてホント掴み所が無くてただ眺めるだけ。

足腰もおぼつかないよれよれのお袋も一緒に楽しめるような
行楽は今までやっただんな幹事よりも難しくして旅行案内は見るだけ、
頼まれるがままに買ってきた万華鏡を組立てのぞき込む三角錐や
四角錐の穴の宙に浮かぶ多面体に吸いこまれるような浮遊感で遊ぶ。
(02.08.19)

変わらぬ変わり目

遮光された体育館で流した汗もシャワーですっきり外に出たとたんあまりの風当たりのよさに立ち止まり見上げる青天井をどこまでもカラッとした風が雲を運び足を踏みだせばクタクツときそうな夏の飢餓感が切ない。

ちよつと強めの風に庭の木瓜が2く3輪狂い咲いて揺れあたりを一巡りすればスイスイ赤とんぼも飛んでいて夕方ともなれば庭の至る所に細い蜘蛛が網を広げ探し物？全く文句のつけようのない日々の一時がやって来たね！

夏の終わりのセンチメンタルな子供の気分が甦るようであと数時間で楽しい旅行が終わってしまうようなこのままそのままどこへも帰りたくないようなそれでいて取り立てて言うことのない一瞬の満足感。

大人になってからも忘れてしまったようで忘れられないこれでひと夏の出来事でも加わった日にや、たまんナイスやたら強盗殺人事件の類いだけが目立ったこの夏の裏側だからそれこそいろんな夏がさまざまに生きられているんだよね！

色は違っていてもそれぞれひと夏の絵日記が閉じられる感触などは幾つになっても変わりゆく同じものみたいな暮らしの句読点じゃないか。(02.08.22)

どこかフェスティバル気分

8月も終わりに近くなりテレビでフジロックフェスティバルや東京ジャズ2002など長時間ライブ番組などでつつい夜更かし録画再生してまで楽しめばなんだかこの夏の締めくくりみたいで若い元ちとせや円熟したオマールのボーカルを聴けば夏バテ無用！

さわやかな日曜(8/25)の午後にスキーをチューンナップに運んだついでにかつてはライブ・アンダー・ザ・スカイで盛り上がったこともある太閤山ランドを抜け娘の車でクロスランドおやべまで一走りすればヘリコプターが飛び回っていて家族連れやカップルの人出もそこそこ。

散居村の一角で名前負けしてるような奥行きも広がりもないレジャーランドの遊覧飛行に時間切れで振られてよかつたくらい、100m昇ったタワーの眺望も戸惑うくらいにのっぺりしていて敗戦後の四半世紀を過ぎたあたりもなかなか掘り起こせなかつたよ。

フェスティバルに飛来した機種も異なるヘリコプターを見下ろせばまるで採集した昆虫を展示したような懐かしさで芝生も染まりそう、どこかブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブのキューバ音楽みたいに着古したのに古びない響きで包み込むように陽が傾きはじめていた。

で、撮り帰ったデジカメ画像で目立ったのは物珍しさに腰掛けたまま
ヘリコプターみたいに脚を開き気味でまるであどけなさ&だらしなさを
行ったり来たりしているみたいな風情は年齢に関わりないということかな。
(02.08.26)

水際立っていた輝き

夏が戻ってきたのか二夜連続で体育館通いなどやったら
まさしく年寄りの冷や水に近い気怠さが張り付いたようで
適度な塩っ気と水気が生き返るように美味しいんだよね。

近々見たもの聴いものがみずみずしく万華鏡みたいにワヤワヤー

立山連峰がそびえる東の眺めと違つて高屋敷界限から見る

普段は何の変哲もない夕方の西の空に途轍もない雲と光のファンタジー！
先週のスポ少バドミントン（8/24）コーチの帰りがけだったんだけど
手伝ってくれてるヨメともども眺め続けられるよう回り道しながら歩いたよ。

あとで娘に聞いたらチチローの講演を聞きに行つていて見逃し

僕はといえば二度とない好機にデジカメを持ち合わせていなくて、
山歩きしていたころは鞍部を滑る滝雲など珍しくもなかったけど
身近な平地であんな自然の光景に出くわすとは思ひもよらなかった。

暮らしの手応えがおぼつかなくなってきたのはいつごろから？

アフガンの空爆孤児が水売って生計をたてている様がテレビに！
日本で水がガソリンと同じような値段で売られるようになってから
世の中のモノの見方考え方を組み替えないことには生活実感も薄らぐ。

この夏の贈り物が消えた空の下あたりで縄文遺跡の発掘が盛んだったのも
どうしようもなく天皇制やいろんな伝統などもろの根拠が揺らいできて
確かさが失われ現在や未来がどことなく不安でしようがなくなってきたから。
(02.08.29)

あれからもう1年

お盆も過ぎ九月になればという涼しきへの期待とは裏腹に昨日の日曜日(9/1)は富山市が38.3℃で全国1番だったなんて近くに住んで一度も出かけたことのないおわら風の盆もさぞ汗だくだつたらうけど有名という病気に罹った一地方の町興し行事の悲哀みたいなものも十月開催に移せば薄らぐかも。

酷暑をもとめせず地元の小学校の体育館を閉めきって

スポ少の子どもたちの夏休み最後のバドミントン大会も

第七地区内の組織活動が下火で残った2団体による校下対抗みたいだけどかつては見向きもされなかった父母の参観が特筆される。

「9・11テロ事件」以降ますます頭数が大多数を占めるといっただけなのにそれで正しいとされるような風潮が強まったような世間的病状判断からは健康なんてどこにもないようであらうじて三才未満の子どもに

それも奇跡みたいな家庭環境に恵まれた場合にしか宿っていないのでは？

文庫本になった『ペイ・フォワード』を買いそびれているうちに

その映画化作品をテレビで観てしまったけど主人公のトレバー少年が

他者から受けた親切を次の三人へ渡すというアイデアは善意の押し売り

というヒューマニズムの変形じゃなく贈与の新しい形としてなら可能かも。

至近距離だとお前なんか生みたくなかったとか、誰も生んでくれと頼んだ覚えはないなどと嘯いてもおられようけど、代々重なったあげくの果てに我が事のためだけに関係のない他者を巻き添えにして平然と生き延びしかも事の理由をすべてそう仕向けたとする相手のせいにして省みない。

このほど中川原と天正寺間が開通した草島線に限らず市内の道路は

どこもまだまだ安全に自転車では走れないようだけとお盆の間も

ゴミ収集を休まなかった市の行政なんかは飲食業を営む人だけじゃなく

家庭の味でもてなした主婦達にとってもこの夏だけで終わってほしくない

クリーン・ヒットのお手本としていろんな現場の次打者がペイ・フォワード！

(02.09.02)

目から鱗の書見台？

女の姿が開かれる魅力はうなじと腰と膕にありなんていうと面食いじゃないみたいだけのことパソコンには機能美を追求、ということわが家にも17インチワイド液晶画面がやってきた。

まな板のど真ん中にピッカピカの折り畳みナイフを突き刺しふつくらした鏡もちの中心に杭のように立てた姿に近いかな、デスクトップのキーボードと同じくらいの幅の薄いモニター画面が気ままに指先ひとつで自在にその高さや角度が変えられるようになって使い手が姿勢良く真正面から見られるなんてほんとうに初めてのことだ。

遠近両用眼鏡が欠かせない僕なんかにとって好都合の体勢が決まるとディスプレイで丸い筐体や自在アームが丸ごと隠れてしまうから高次映像を味わった筑波万博の富士通全天周ドーム体験には劣るけど宙に浮かぶ電子書見台みたいでまるでこれが当たり前みたいな使い心地！

注文したオンラインストアではまだ千台も売れていなかったようだけど左手と後ろに明るい窓のある部屋で昼夜とも画面の映り込みに煩わされず使い続けられるデスクトップパソコンは業界久々のクリーンヒットだよ、どれくらいの人々が重要性を認めるかわからないけどおそらく職場のとくに老眼が始まったような中高年の作業効率が間違いなく上がるデザインだね。

文句のない画面の高さと角度を買ったまではいいが添付されていた
車好きが喜びそうな「ジャグワー」という名の新OSをインストールしたら
使い慣れた作業環境がすんなり移行&構築できず四苦八苦するはめに
売れていない機種とは言えインターネットをかけずり回ればなんとか
お役立ちサイトがみつかったなんとかWWWサイトの更新作業にこぎ着けた。
(02.09.05)

これからのペース配分

市内の校下対抗バドミントン大会の地元参加メンバーの頭数合わせに引つ張り出されしかたなく日曜の夜に周辺機器のドライバやOSのアップデートをやったりしてLANケーブルでつないだ一階と二階のパソコンでデータファイルやプリンターを共有しこれまでのパソコン資源を意のままに使い回す今週からの目論見はどうやら外れそう。

ネットから落としてきた最新のファームウェアをインストールし動作確認してからシステムのアップデートをやったのにいざとなつたらちつとも動かなかつたりいい加減面倒くさくなつてこなくもないが一旦取りかかると引き下がれないのだ。

体育文化センターで偶然出会ったバドミントン馴染みは昨夏の僕の退職を知つてスポーツを楽しめるまで回復した毎日をどうやって過ごしているか不思議そう、だったけどどんな状況に置かれたつて時間を持て余すなんてことはないだろうし気分はフリーターみたいになつてから考えさせられたことの一つはペース配分かな。

大学図書館の司書として打率3割を維持できていたかどうか心もとないけどあんなやり方で仕事をしたりそんな風にしか人と関われなかつたりこんな酒の飲み方ではきつと間違ひなく心身を壊すだろうということだけは体の節々で思い知らされたというか現場にいるときはどうあがいても本当のペース配分が掴めなかつたようだ。

いつもやり足りないかやり過ぎてしまふかたちでしか物事と出会えなかつたのもしかもそんな形で人を巻き添えにせざるを得なかつたというのもその通りなんだが年を重ねれば重ねるほど必要になつてくるのはそれまでに培つてきたというか

その人その人なりに身についた自然治癒力みたいなペース配分の持続だろうね。
(02.09.09)

秋への抜け殻

やつとというかかなり秋らしくなってきたけど季節の変わり目にはなぜか模様替えをしたくなってきたりしませんか、部屋とか着るものとか。

新首相官邸を覗けたりインターネットがいきなりもたらす異次元の出会いで身近でやったねーというのが、かつて専門図書館と総合図書館にまたがって一緒に働いたことのあるお方から映画ファンサイトを開設しましたというなんとも秋らしい便りにはちよつとびつくり、だつて自称パソコン音痴だったかの女性司書はさぞこの夏にいろんな汗をしばって電腦ライフに模様替えだね。

どこまでいじり倒せるかどうかとこんとこ触り始めた新マックOSも素人の感触としてはすつかりユニックスに模様替えしてるじゃないか、今じゃテレビ番組でも誰が整形美人か当てっこしているようにいよいよ身体のパーツの模様替えも大つびらにさらけだすようになってきたようだ。

在宅パソコン作業休憩なんかでインターネットラジオをBGMに流し、ヨメが出してくれたコーヒーを飲みながら、遠くで活躍している退職女性図書館員の電腦パステル画廊を訪れたりできるまでに日常の交遊具合も職場での私用メールみたいな様変わりしているよ。

あやふやな内面みたいな感触がゼロに近くて良いも悪いも開けっぴろげな電腦広場の散歩が実生活を変えたり模様替えなんてことはあり得ないのにDSL接続加入が月に30万件も増え続けるような通信スタイルの様変わりに

遅れるみたいにして様々なコンテンツの芽生えもサイバー砂漠へと続く。

いきなりSOHO用のパソコンを見繕ってくれろなどと娘の車で

家電ショップに連れ出されたりしてもてんこ盛りの機能に戸惑うだけ

基本仕様と値段を確認してマシンを持ち帰った庭で踏んづけた蟬の抜け殻の音。

(02.09.12)

この秋の距離感はどうか

秋景色は一足先にテレビからということ、『北の国から』や「エーちゃん」のライブなどにえらい時の流れを感じたりもしたがどちらもWBA・WBC世界S・ウェルター級王座統一を争ったオスカー・デラ・ホーヤとフェルナンド・バルガスとの戦いほどには胸に来るものが薄いなどと言うとファンの方々から怒られそうだね。

たとえば「寅さん」や「釣りバカ」は一本で十分ということ、いま・ここに根ざした新しさに感動したくてもなかなかないが、十三日の金曜の晩に映画『13日の金曜日』の旧作を二本ばかり見直したらジェイソンの殺戮劇もとつくに現実に追い越された感じ。

三連休の中日は朝の掃除を済ませ素肌に風みたいな自転車散策で吉本隆明『僕なら言うぞ!』（1999年9月青春出版社）の文庫化新刊を調べたら著者の「文庫化によせて」の増補以外に副題の「世紀末ニッポンの正しい眺め方、つきあい方」が「こんなニッポンとの正しいつきあい方」に。

捉えどころのない生き様の一つでもある老人あるいは高齢者は何歳から？ 新聞報道に75歳以上が一千万人を超え、総人口の7パーセント強とあったけど「こんなニッポン」の内側の一面でもある超高齢化社会の切実さについてしっかりと物言いがどこからも聞こえてこないような気がしませんか。

図書館で働いた実感の一つとして本好きと読書好きは確かに違うけど

まだ書かれていない本や表現を待っている内容に憧れる内実は似ていて
親と子の（家族）関係や人と人との（社会）関係が不健康（病）になっただけ
どこかで言葉と生活実感のバランスを探し続けているんじゃないだろうか。
(02.09.16)

それにしてもね

それにしてもあんまりだよ、日本人拉致問題についてはずっと
「ありもしない問題は議論されるべきでない」と言い張ってきたのが
180度でんぐり返ってまたまた無辜の方々の犠牲が明らかになった。

日本人同士のカップルだけが生存していて、残りの方々だけが病氣や
災害で亡くなるなんてあり得ないことでも信じられませんが、
「拉致は一部特殊機関のメンバーが英雄主義に染まって誤った
行動に出たことで、私が承知してからは止めさせ責任者を処分した」
と伝えられたが嘘八百もいいところ、事を明らかにする誠実さもない。

太平洋戦争では半島から90万人が強制的に日本に連行され
未だに行方知れずの人も多いと聞かすが、だからといって
帳消しにされるような事柄ではないから、日本政府はきちんと
責任と賠償を要求しないことには何事も始まらないだろうね。

かたやアメリカの操り人形を演じ一方はアメリカの脅威に怯えながらも
日帰りデートをした二人のボスにはそれぞれ政治的な思惑が絡むように
読んでみた『日朝平壤宣言全文』の「2002年10月中」が唐突に目を引き
「日朝が不正常的な関係にある中で生じたこのような遺憾な問題」として
握手を交わした姿はあまりにも無惨と言うか醜悪で目も当てられないよ。

(02.09.19)

秋の目線で

祭日で保育園がお休みのマー君を預かったらさっそく散歩に稲刈りの終わった田んぼを抜け住宅街に近づくと木犀が香り歩いたり手押し車に乗ったり低く弾むような幼児の視線は休まない。

全く縁がないとはいえテレビに映ったりするとつい見えてしまうゴルフに感じるのは俯瞰映像で距離を制御する三次元の触覚みたいなプレーヤーの視線の力なんていうと笑われそうだけどやっぱり寸分の狂いのないプレーをコントロールしている目の力が凄いね。

大金持ちどころか小金持ちにもなれなかったけどメガネ持ちというかいつも手元と遠くと遠近両用の三つは常備というか手放せなくて古びた双眼鏡や使い慣れたデジカメは裸眼の素晴らしさの代用みたい、携帯GPSで位置や速度を知り気圧や高度や方位を示す腕時計を身に付け移動しながら目の届かないところを確認できたりするのも面白いよ。

映画のスタートレックで見た視力を失った人でも見える眼鏡みたいなスグレモノが使えたら鈍った勘も少しは働くようになるだろうかなどと思ったりするのも歯に次いで目の衰えも隠せなくなったということだ。

図書館の薄暗い閉架書庫や夜の閲覧室でのシフティング作業など困ったことに疲れる以前に図書のラベルや雑誌の背文字が判読しにくくとくに書架の最下段や最上段の配架作業は見えないイライラばかり

どんなメガネを使っても解消することのない職場の秋の始まりだったよ。

ようやくリハビリ状態を抜け出せたスポーツでも上達どころか

相変わらず凡ミスを繰り返すばかりなのも基礎体力はもちろん

そもそも動体視力が駄目になってきていうことをきかないのだろう。

(02.09.23)

さり気ない持続に拍手を

中秋の名月の名残がいいもんだから夜の外出など行き帰りがスローペースになって体の方もすっきり秋の呼吸で飲食や見聞きする楽しさを満喫気味だね。

この夏の定番みたいに聴いたジャマイカのギタリストの輸入CDがやつと届いて季節外れのジャマイカン・リズムでよしもとばなな（改名したようだ）の最新書き下ろし小説によくできた寓話を読むようにしつかりはまり込めたんだな。

そのうちアイザック・B・シンガーの短編『シーダとクジバ』みたいな域に達しそうな期待を抱かせて嬉しくなったよ。

出たばかりの村上春樹『海辺のカフカ』にも手が出そうなくらい浮き沈みを繰り返す物語を紡ぎ出す作家の力が上向いた時というか時代の「旬」と向き合った「作品」に出会えたりする満足感は当たってみなぎや分らないだけにあれこれ漁らずにはいられない。

図書館仕事の傍ら家ではレコードを400枚以上、映画を300本以上そして本を100冊以上、一年で見聴き読みこなしたりしたことあったけど気が付けばそんなこともあったなという時代が過ぎたというだけだ。

さぞ暇を持て余していることだろうといかにも怪訝な顔をされたり

さぞいい時間を過ごしているんだろ？ねとうらやましい顔をされたり
ここ一年はほぼこの二色の言葉をかけてもらったのがほとんどだったが
これでもいいも退屈からもほど遠くどっちつかずで中途半端なんだな。

ベテランだろうが新人だろうがいいなと思える作品にはきまって
その作家にしかない、はじまったばかり、が隠し味になっていて
いつも新しい持続力を維持する目立たない力技に脱帽するしかない。

(02.09.26)

役を待っている役者のように

最初の出会は大型計算機センター内でどんなコンピュータを見たんだっただろう？ そんなことも忘れかけた頃、職場にオフコンが入って業務システムの子守役など、更新を重ねるうちにワークステーションからパソコンへとダウンサイジングしたが、いずれも女心のように中は見えない読めないで意のままに扱うなど見果てぬ夢だった。

高校入学前の娘にせがまれ、大枚はたいてわが家にやってきたMac Plusにウォー！ 見たまま触った直感で動いてくれるコンピュータとの易しい出会いにびっくり文字でも絵でも音でも切ったり貼ったり最初の驚きが凄かっただけのことだが娘ともども遊んだHyperCardでリンクする面白さがやがてパソコンを飛び出し今じゃインターネット上を駆け巡るようになってでもコンピュータは謎の役者みたい。

自前のウェブサイトで「高屋敷の十字路口にようこそ」とテロップを流してるけど訪れたあなたのことやサイトを維持しているぼくのことやコンピュータは知らない、クライアントやサーバーの命じるままにただただ処理を実行し続けるき・も・ちはどんなものかたとえば注文の来ないシェフや作家に近いということはないよね。

マニュアル本もまともに読まず困ったらパソコン通信やインターネットが頼りそれにしても使いこなすまでの手続きがフツーの人にはとてつもなく面倒くさいしオタクにとつてもこんなに世話の焼ける代物がパソコン以外にあるだろうか？ 電脳文房具とかデジタルハブとか呼べば呼ぶほど遠ざかってしまう光と影。

停電やトラブルで使えなかったりネットワークが繋がらなくて仕事にならず

ぼんやり途方にくれるしかない舞台裏で一息ついていたのはいったい誰だった？
ほんとうの出番は与えられるもんじゃなく作るしかないということも知らずに
ドッグイヤーで駆け抜ける傍道で別人28号みたいなパワーユーザーも眺めた。

電脳海洋を泳ぎ続けるマグロみたいなコンピュータの目指すところは何なのか
ドラえもんの中でもドアみたいなネットワークから何でも端末化までなの？
暮らしの中に情報個室を出現させたところへ今どきどの世代よりお金と時間が
自由になる高齢者層がどんな風に知恵や体験を生かせるかというのも見物だね。
(02.09.30)

匿名に技あり？

ひよつとして、ノトノダイク、という当てこすりをご存知かな？

ベテランボクサーが各ラウンドの終了間際に判で押したように見せる攻勢みたいにとにかく時間潰しを心がけ午後4時頃からやおら格好をつけ仕事を終えたりどこぞのサラリーマンの場合なんかそのまんまダラダラ残業に突入つてのもあったり。

相変わらずリストラや55歳定年首切りなんか横行するからか

知合い業者とつるんだ求職活動証明で失業保険金をせしめたり

金になる噂を聞いて札幌や狭山の西友へ偽装客となつて

押しかけては偽装肉購入者に対する返金を横取りするのも

さもない貧者の知恵というより偽装には偽装で応える開き直り。

さまざまな商慣行のひとつとしてあばき出された食肉偽装叩き

過剰反応で縮こまった西友には地元のお客様しか見えていなかったのか、

自己申告が通用する地域の顔のむこうに匿名の顔なしどもがいつも蠢いて

場所さえ違えばその地域の顔と匿名の顔がいとも簡単に入れ替わることが。

ここぞとばかり「清貧の思想」を持ち出したりして紙切れの上で

犬の遠吠えを繰り返す識者も暗黙の商慣行にまみれた経営者も

それぞれの場でやっぱり匿名に胡座をかいて顔はピンボケなんだよ。

公の場での「スカートの中の撮影」に合法判決を聞いて喜びいさん

ワシントン州へデジカメ片手に出かけパチパチ写している男性も

撮られたスカートの女性のプライバシーもすべて匿名に付され
盗った盗られたですったもんだの私小説の場合とはずいぶん違うね。
(02.10.03)

まさかの色合い

秋たけなわにしてはどこか蒸し暑さが居残っているようだけど家の障子を張り替えたりしたら部屋の陰影もくつきりすつきり明るさを増したようで居心地の色合いもどこか深まったようだ。

校下の住民運動会からアジア大会までスポーツの秋も海の向こうでは初戦の逆転負けにもめげずくたばれヤンキース[♪]を地でいく3連勝で2002年米大リーグ地区シリーズを勝ち上がってア・リーグ優勝を争うことになったエンゼルスの主将が「まさかこんな結果になるとは夢にも思わなかった」と言ったようにひよつとしたらもしかしてを實現したこれぞ大番狂わせの試合展開には熱くなったよ。

行楽に備えたわけじゃないがタイヤを新調したサイクリング車で久しぶり地面に食らいついた走りのよさに思い出し悔やまれたのはもっと前にタイヤを交換しておけば去年のスリップ転倒のケガも防げたのにまだ大丈夫とばかりに滑ってコケたまさかに思い至らなかった愚かさ。

食欲の秋の午後の走りの締めに馴染みの暖簾をくぐればどこかのテレビ・クルーが撮影の真つ最中で気が引けそうになったり、走り疲れに勝る咽の渴きと空腹に背を圧されるように寿司盤に座ったら某デジタルテレビ局の食番組の取材とかも邪魔にならず寛げてよかったが、

聞き及んだノーギャラに近い地元テレビ局の食番組の作り方にはあきれたというかまさかかかっての左翼活動の発想と寸分も違わない無節操が生き残っているなんて、

機関誌に依頼した原稿料を払わなかったり講演料をピンハネするのが当然のようにその道で稼いでいるプロに出演してもらいながら食材や拘束時間の無視が当たり前。

大風呂敷を広げるように貧しい暮らしからの脱却や豊かな生活を掲げながらまっさきに自らの組織の活動にかかわる人たちが裏切るような冷たい秋風はいつか来た道だけじゃなく今日もどこかでさまざま組織を巻き込んでまさかの坂を吹き上げ吹き下ろし人心を千路に乱す野ざらし紀行じゃないか。

昨秋のワールドシリーズでヤンキースを倒して王者になったダイヤモンドバックスもナ・リーグ地区シリーズでカージナルス相手によもやの3戦全敗で敗退の憂き目に、つてことは今年も予想のつかない色合いで展開するワールドシリーズが楽しめそう！

(02.10.07)

秋の頁をめくるように

毎週火・水曜と二夜続きの体育館（小学校）通いにも肌寒さ
しばらく前までは暑いからくつつかないでなんていつてたのに
もう肌をよせあい手足をくつつけいい気持ちで眠れるよ。

深まる秋といえば温泉みたいな旅の気分誘われた出来心に浮かれ
借家住まいから共稼ぎ通勤バスの中で二人ともその気になっちゃって
駅前の公衆電話から互いに相手の職場にウソも方便の連絡を入れ
山里の温泉へ解き放たれたような日帰りの旅を楽しんだこともあった。

先週ご近所の寿司屋さんで飛騨の天然鰻を焼いてもらったら懐かしい味、
過ぎし春にたまたま知り合いの家庭の小学生の娘さんが飛ばした風船が
飛騨で旅館をやっていたお婆さんに届いたいきさつのおこぼれから
地物の松茸料理など家族ぐるみで味わった古い秋の旅のおもてなしも偲ばれる。

降って湧いたようなお出かけを地で行くことから遠ざかったみたいに
読み始めた村上春樹の『海辺のカフカ』はA面B面を交互に聴くような頁仕立て
手軽に文体で旅を味わうなら柳田国男の紀行文か岡本かの子の小説だろうか
秋の日の一人旅を読むとすれば中原中也の詩をひもとく午後がいいだろうね。

昨夕からかけめぐっている地元出身者のノーベル化学賞受賞ニュースも
一民間会社における「エンジニア」として不意の出来事のようなのに
いろんな「関係者」ばかりがやたら入れ込んであるみたいだけど

しばらくはこれぞ富山市民にとって最高の秋味が漂うのはいいんだが
これまでの富山は田舎みたいなイメージが変な具合に消えて欲しくないな。
(02.10.10)

心配事はダンスだけ？

なぜかテレビで観るアメリカの野球場にはいわくいいがたい魅力を感じる
ということとBS放送中のMLBのチャンピオンシップシリーズをBGVに
ここんとこ午前中はほとんどリスニングルームで古いパソコンに残っている
吉本著作書誌の遡及データのテレビ観ながら処理作業も捗っていいけど
手の腱鞘炎は治ったのに首筋のしこりや痛みが持病みたいに抜けなくて困ってる。

アメリカンリーグの優勝を争うツインズ対エンジェルス第4戦にはびっくり
突っ込んできたセンターが捕球しそこなつた打球がフィールドにめり込んだら
カバーしていたライトがさつと掴み出し素早く内野に返球していたけれど
あの柔らかさがボールパークのフツの作りだったとは知らなかったな。

何ごとにつけ自らの環境や資質に基づく感性をフツだと思ひ込んだら百年目、
島津製作所の「ソフトレザ脱着法」の開発者の報償金は1万1千円とかで
日亜化学を辞めた「青色発光ダイオード」の開発者の報奨金は2万円だったとか
ま、どうでもいいことだけどその先があまりにも対照的なのは何でだろう？

ひよつとして「青色発光ダイオード」が年間500億円の売上増をもたらしてて
「ソフトレザ脱着法」は年間5億円の売り上げという両社の金額の差なんだろうか
前者の特許権をめぐる企業と開発者でいずれのものかを争う訴訟になったりしたのは、
ベラボウな額を競うプロスポーツ選手の年俸みたいでどこまでがフツなんだろうね。

12月の授賞式でのダンスが心配と語ったりしている「ソフトレザ脱着法」の

開発者と企業の間では報償金の増額や5階級特進の「出世」が取り沙汰されてて
ここでも寝耳に水みたいなのトクベツとフツ一の扱いをめぐって押したり引いたり
ジョーシキからはみ出しながらどちらの腹の虫も収まるところに辿り着くのかな。
(02.10.14)

秋を通過する二色の手触り

出かけた人の話ではどこもかしこも人出で一杯だったようだけど、連休出不精の扉を叩くみたいに旧知のご近所の住人が十数年ぶり、大学生になった長女や人馴れした犬をおともに冷やしたワインまで携えて訪れてくれたりして居ながらにして秋の午後を寛いだ気分。

物静かに愛嬌を振り撒いたりひっそりソファに寝そべっては、まるでみんなと一緒に団欒を楽しむ姿は生きたロボットみたい、なぜか犬が苦手のヨメや預かっていたマー君が触って平気というか、野生臭さがまったく抜け落ちた安心感がペットの距離感なんだね。

前夜の運動の筋肉痛が残っていたけどとてもサイクリング日和にしたいような天気誘われかけたところへ娘夫婦からの電話で誘い出された行先は高い秋空が広がる山あいのいい動物園だった、というのも水族館や植物園の肌触りも味わえる新しさがあったのさ。

開園三年目にしては動物臭さが薄いのに動植物との距離感が良いのか、平日なのに家族（子供）連れやカップルが居心地よさそうに散策し、団体さんの幼稚園児達が馴染んでいる様子からも居心地の良さがあり、体内に隠し持つ動物と植物の二つの系に無意識で触っているみたいだった。

ヘッドライト横浜をキャッチフレーズにベイスターズを引き受けた山下新監督が「頭では猫のように動こうとして像のように動いた」なんて言ったように、

人の心は動物系か植物系いずれでも動くかのようで最近の拉致被害者を取り巻く映像に
そっと涙を誘われたりするのもしかっつての中国残留孤児の映像以来かもしれないな。
(02.10.18)

二度目はどうか？

午年のやじ馬心をくすぐるように目にとまったカネとセックスをめぐる秋の出来事、夏の事件を再生してみたいな「同一信金になぜ強盗 甘く見た？ 防犯体制」と二度目の春を求める男「1340人から4000万稼ぐ バイアグラ無許可販売」。

物欲も性欲も初めの満たされ方で「柳の下のドジョウ」の狙い方も違ってくるのか同じヤマは二度足を踏まず非市販薬なら医者処方せん頼みという正攻法をはずしローカルの信金を甘く舐めたか老いて回春剤に頼る男の性のしゅう恥の深読みか。

精米を家業としていた作業場から米を盗まれたことがあつたけど一度に持ち出せなかつた吠を数日後に再び盗みに入つたところを

待ちかまえた駐在さんが捕らえてみれば同じ村のあんちゃんの出來心から盗んだ米を売って遊興費にしたりした売春防止法施行前の単独犯だつた。

道路わきに書かれた「バイ〇グラ」の広告など目もくれない若い男女ならばこそ夜間開館の翌朝には使用済みゴム製品やティッシュで汚された閲覧室トイレ掃除に時として手を焼いた閲覧業務の一コマもあつたようにオスとメスの確認に恥など要らぬ。

歳とともにセックスの遊びも手続きが複雑な買い手あつての売り手の闇商売だがおいしさが巡ってくる二度目の性の春の味わいもなぜかしゅう恥を忍んでこそ、コンドーさんとセットで市販すればなどと平気でいつてのける輩にはまだまだ二度目のよさがどんな具合なのかその先を深める男と女の遊びに届かぬもどかしさ。

何一つとして元に戻らぬのが老いの立ち行く先々の姿だから

今日やれたように明日はできないからこそ二回目格別なんだろうか、
自分にとって良い映画や音楽は二回目で極まるようで落ち目に違いない
スキーやバドミントンにしたって二度目の今の方が断然面白いというか
再開したばかりのギターにしたってここんとこ数ヶ月は毎日のように触ってる。

持ち家や結婚となると二度目に縁がない自分には何とも言えない井戸の蛙でいい
なくって一度くらいはカッコつけたりしないうちにもよくなってしまうみたい、
しょっちゅう顔を見せてるのに未知の二回目みたいにか計や子育てと出産に精を出す
娘夫婦の姿なんかに見とれたりできることが無知で世間知らずなわが家の二度目の秋味。
(02.10.24)

ぐうたらとだらだらに挟まれた温もり

珍しいみたいに晴れ上がった窓の東の山々がすっかり冬化粧じゃないか！

雪化粧をした紅葉を眺めるサイクリングもいいけど短パン半そではもう駄目で今年も後2ヶ月となるとなんだか衣食住揃い踏みで冬支度気分になりませんか。

急に寒くなったここ数日は居室を移るたびに暖房器具の掃除やテスト運転や
嘯み合わせの悪さが気になっていた開き戸のカギを取り換えてすきま風を防いだり
サボっていた「情報探索デスク」の更新などチマチマした屋内作業も悪くない。

日常の立ち居振る舞いがままならないお袋のお使いで時々訪ねる医院の待合室
夏には涼しげに見えた立派な水槽の魚たちもぬくぬくと暖かそうで見飽きない
いつも応対が良い窓口の女性の話では老人医療制度もちよつと変わったようだ。

ゆきあたりばったり十代のアルバイトの数々も駆け出しで終わった会計事務所勤めも
いささか長すぎた大学図書館勤めも終わってみれば今更振り返ることもないようで
どうやって手を抜くかうまくサボるためにとりあえず一生懸命やるしかないってこと
状況がどう変わりこれがあつたからここまで続くこれからもやっていくしかない。

小遣い稼ぎに余念のなかった中学生の頭の隅っこで座り込んだり渦巻いたり
自分はなぜいま・ここにこうしているんだらうというワケノワカラナサから
どうやって抜け出せたか今もってわからないようどつかで引きずっている
いくつになっても嘯み合わせの悪さ折り合いのつかなさ当たり前前の味わい

「サザエさん」と「ぐうたらママ」のあいだをいったりきたりしてるみたい
二紙取っている「新聞」もここ一年は読むのも面倒になってきたようだけど
いっそのことやめてしまってオンラインで読む時間という手もあるようだし
今日やれることを明日に延ばさず頭を空っぽにして眠って迎える朝の温もりがいい。
(02.10.31)

忘れられない語りの味わい

早過ぎた寒気の来襲に風邪気味だが川原や山麓の紅葉狩り気分もそこそこ溶けだすような晴れ間で久しぶりに眺める山々が眩しいくらいに輝いてるけど、寒くなる前にしつかりこれを済ませできたならあれもしたい目論見もどこかへすつかり置き忘れたかしまい忘れたみたいに氷雨の日々は講演CDを聞いたよ。

トレッドミルやエアロバイクをやってみたこともあったがなんか馴染めなくて余暇の醍醐味である無為がなんか違うというか不自然に過ごしてる感じがな、そこまで無理して体を動かすより本を読んだり音楽を聴いたりも駄目って時だと身も心も空っぽにして手ぶらで人の話を聞くつてのにはまったりするんだけど。

小さかった頃から馴染んだ落語も昨秋のBS-i「古今亭志ん朝追悼特別番組」で『愛宕山』『刀屋』『文七元結』なんかを最後にさっぱり耳にしてないようで、いつの間にかテレビから落語番組が消えてしまった埋め合わせじゃないんだが十数年前だけど読みついでできた著者の講演に数回出かけたなら全てを録音で聴きたくなった。

若さの行きがかりみたいに坂田昌一や西脇順三郎など手当たり次第だったがたまたま会場に足を運んだ平野謙や中村光夫なども含めすべて一回きりの講演通い、眠る前に落語(CD)を欠かせないとか小林秀雄の講演(カセットブック)が日常の音楽代わりなんてまるで他人事の物珍しさだったのに昨秋から刊行中の吉本隆明の講演CDにはまるとは。

目にした新刊を必ず買わせてしまうような数少ない物書きの病みつきになる文体とかどれだけ聴いても聴くたびに響きが違うみたいに五体にしみ込む講演があったりするとか

悪天候のさ中に自分の資質に合った全身運動をしたみたいに爽快感で一杯になったり目や耳を使って文字や言葉で運動するってのも悪くないよなりのオタク気分だね。

そうそう母方の婆さんが語ってくれた寝物語は幾つになっても忘れられないようで

何度聴いても飽きなかったし亡くなってから読んだ柳田国男が採集した「物語」には

婆さんが繰り返し聴かせてくれた昔話の全てのパターンが隠されていて泣きそうになった。

(02.11.07)

景況の引き出し

頻発する「ブリ起こし」や季節外れの黄砂現象に驚いてもいられず一ヶ月あまり寒さを前倒したような十一月の気候にも慣れたのか暖かい部屋で活きのいいカニや脂ののった魚が食卓を飾ったり、通い慣れた寿司屋でのアルコール度43パーセントを誇示するようなあるいは発泡性が物珍しい日本酒の「初物」が冬の旬を引き立てたり。

ご近所では家電量販店やファミレスやその他色んな郊外店の看板が賑やかだが地元住民の目立たないご愛顧があつての風呂（鉱泉）屋やパン屋さんにお好み焼き&焼きそば屋にラーメン屋にきときとの魚屋やイタ飯屋ぐらいかなその時々散歩圏内にそれぞれ美味さで生き延びているお店があるつてのは嬉しいね。

誰にも分かるデータで示す失業率や個人消費の動向だと「経済」音痴にも分かるけど言い回しばかりで実態がぼやけたような景気判断報道にはいつも戸惑うばかり。

1年ぶりに下方修正の十一月景気判断による局面が「腰折れ」の現実味を増したとか延びが急速に鈍化した輸出数量が前月から「弱含んでる」に変わったたり生産についての持ち直しの動きが「さらに緩やかになっている」とする見方も国内卸売物価が「横ばい」から「弱含み」に変更しなきゃならない判断も個人消費が「横ばいで推移するなかで、一部に底堅さもみられる」との根拠もああ言ったりこう言ったり言ってみただけのようで小学生にも分かる説明が欲しいよ。

なんだか混ぜっ返すのもむなしいけど忘れもしない十数年前の日米構造協議の際に

まるでCTスキャンにかけたみたい日本経済の腸までえぐり出して見せたあの
当時のアメリカ並の分析力をタイムリーに発揮できる人は何処で何をしているんだろう。

事あるごと報道場面に顔を見せ話してくれるいわゆる「専門家」のモノの言い方も

「環境は厳しさを増しており、最終需要が下押しされる懸念が強まっている」みたいな

国内景気の先行きを云々するのと同じような響きしか持ち合わせていないのは何故？

(02.11.14)

図んで書に入る館の虫

降って沸いたような穏やかな日和も三日と持たなかったけど昨春に新築開館した隣町の公共図書館長にお会いでき話のあと丁寧に館内を案内してもらったり元図書館勤めの寝た子を起こすような秋の午後になんばかりフレッシュされたよ。

テレビが取り上げた絵画（複製）貸出サービス報道画面に映った館内の様子からそのたたずまいなどが気を惹いたけど思いがけず館長さんから手紙をいただきあつという間に行き届いた設計の館内と実際のサービスを見られた事の次第にびっくり。

左ひざや右ひじに首の後ろや左肩など関節のしびれや痛みも薄らいだとはいえヨメにも言われてサイクリングは駄目よで久しぶりのバスと徒歩が爽やかで着いたらまず外観を巡ったがエントランスからカウンターが見えない奥行きがいい感じ。

東西に広がる館内を一望できる小振りのカウンター視線の切れ味もよさそうだし北側2階の透明な壁越しに古い受入図書が並ぶ閉架書庫が見える工夫もあつたり東に面した飲食や携帯電話OKのテラスから立山連峰が一望できるおまけつき。

一日千冊に近い返却処理を含めた日常業務も7人の職員と外注やボランティアで夜間開館や移動図書館サービスにネットワーク端末サービスまでこなしていて蔵書の貸出や相互貸借だけじゃなく情報基盤としての図書館サービスの窓口もあつたよ。

始めたばかりの図書館に持ち込まれた不要本のリサイクルサービスが大当たり読売の地方版でも紹介されたばかりだけど好評な様子を目の当たりにしたりすると

県民一人当たりの図書購入冊数が日本一少ないとされる世評に頷く人もいるかも。

工場の現場作業でケガをして本の訪問販売への転職者の古い話だったかな
買う買わないにかかわらずお隣の石川県民だと話だけでも聴いてくれるのに
本といただけでそっぽを向いて門を閉ざす富山の人が多いと聞かされた。

図書館の普及やその利用について県民性を云々するような意味合いは知らないし

二度と図書館で働くことはないから仕事関連資料も処分して随分身軽になれたのに
職歴絡みで不意に呼び起こされたりするようなことがあってボクの図書館の虫も蠢いた。

(02.11.21)

晴雨の飛び石伝いに

早かった初雪のあとは雨降りが多かった十一月も下旬になったら時おりの洗濯日和で一息つけるが前半の降水量は半端じゃなくあれが雪だったらとても暖冬などとは言ってられなかったね。

第3木曜のボジョレー・ヌーボー解禁日前に海の荒れも治まったところで品数とり揃った活きのいいネタが手に入り娘婿が腕を振るつた握りが食卓にまるで初物のようにワインを引き立ててくれ小春日和みたいに寿司の日が暮れた。

何処の家にも隠し伝えられているようなわが家の決まり事みたいなちよつとした習わしが家族の和みや元気の源になったりするんじゃないかな、色んな浮き沈みを伴う道筋にとっておきの季節の雑事が保存されている家庭がいい。

習俗の中の行事や祭式も捨てがたいというか日常の生活では欠かせないようで誰もが生涯で体験するに違いない危機や停滞を何とかくぐり抜け立ち直ったりできるいつの間にか習い覚えたような治癒力なんかも習俗を営む無意識の行為にあるんじゃない。

事あるたび何だかんだと萎縮し自粛体制にはまりこみがちな姿勢とは逆に縮みそうな気分を派手に解放するような年中行事なんかもやれるってことが大切でそんな背中を見て育った子供や部下が修羅場でも崩れない力を身につけるんだらうね。

一人じゃ生きていけないからこそ社会にむりやり引っ張り出される前に徹底的にひきこまれるだけひきこまれるじぶんの時間を呼吸しながらどれだけ潜れたかで

自問自答できる自分を育てたり他者との風通しも間違いないようにできるかが決まるよ。

子育て真っ最中の母親みたいに時間を細切れにされてからだともう遅いから

どうしようもなく持て余すくらい一人で掘った井戸に隠った気配も見せず

黙って我が子に見せられる背中なんてどんどん遠ざかってもう後の祭りってとこかな。

(02.11.25)

通り過ぎれば無駄話

十字路で立ち話抄二〇〇一年八月～二〇〇二年十一月

発行 二〇一四年十二月十五日

著者 吉田 恵 吉

編集・発行 〒939-8036 富山市

高屋敷731-6 吉田恵吉